

風車と名探偵コナンに会える町

人と自然が共生し、確かに豊かさを実感するまちづくり

本町は平成17年10月1日、旧北条町と旧大栄町が合併し誕生した町で、人口16,000人、面積57km²の農業を基盤としたコンパクトな町であります。鳥取県中央部に位置し、北は日本海に面し、南は靈峰大山山麓にあり、海と山に囲まれた風光明媚な所にあります。

日本海に面した海岸線はすべて砂浜であり、その砂浜に沿つて防風・防砂の為の松林が東西に12・5kmにわたり、白と緑のコントラストが美しい白砂青松の風景が臨め、その南側に広がる砂丘地には戦後、全国でも一早く灌漑施設が整備され、砂丘ブドウ、葉タバコ、長芋、ラッキョウ、白ネギ等が栽培されており、スプリンクラーで散水する姿は、のどかな田園風景を醸しだしています。

また、平野部には水田が広がり大部分が区画整備され、大きな区画では

2haに及ぶものもあり、効率的でコストを抑えた水田農業が展開されております。集落営農の数も県下で一番多く結成されており、地域の結束力を強めております。

**販売額1億円を超える
14品目、認定農業者
県下第一の農業の盛んな町**

そして大山山麓に広がる丘陵地帯は、養分に恵まれた肥沃な黒っぽく地となつており、ブランデーとなつている大栄西瓜を始め、ほうれん草、ブロッコリー、花卉、中玉トマト等がハウス栽培されており、更には乳牛、肥育牛等、畜産事業もあり、県下でも有数の農業地帯であります。また、砂丘ブドウを原料とした「北条ワイン」は西日本で



鳥取県 北栄町 ほくえいちょう

▲日本海から望む風車と松林と大山

奨励賞を受賞し本場外国人にも好評を博しております。日本酒の醸造所もあり、地元の酒米を利用した清酒「つまいがな」や長芋を使った「長じわ焼酎」は大変親しまれています。



▲大栄西瓜初出荷式
マスコットキャラクター「夏味ちゃん」

大栄西瓜は平成19年に栽培されて100年を迎えて、記念式典をすると共に、糖度センサー、空洞検査器を整備した最新鋭の選果機を導入するなど異なる品質・規格の統一を図り、消費者の皆さんに大玉でシャリシャリ感がありとても美味しい、大栄西瓜ブランド

栽培100年を迎えて「北条砂丘」づくりを生産者印りが作詞・作曲・振付を考え、各イベントや販売先で披露すると共に「ホジコピー」というマスクটুকু ক্যালকুলেটরের স্ট্রাইপ এবং সাথে সাথে বিক্রি প্রচারের একটি উপায়।

また、「ラッキョウ」についても平成22年11月、全国「ラッキョウサミット」を開催し、全国产地と交流を図ると共に更なる飛躍に向けて意思統一を図った所であります。そして長芋の新品种「ねばりっこ」は長芋より木目が細かく、ねばりが強い特徴を持っており、生食で販売すると共に、チップスとしての6次産業化を考えています。

しかし、その一方で、高齢化・耕作放棄地の増加、あるいはグローバル化の波等、問題は山積しており、担い手・後継者の育成、新規作物の導入等、強い農業、儲かる農業、そして持続・発展する農業を目指して真剣に考えているところです。

●大栄西瓜初出荷式
マスコットキャラクター「夏味ちゃん」

ところで喜ばれております。またその時にマスコットキャラクターとして「夏味ちゃん」というゆるキャラを作り、販売促進を始め多くのイベントで活躍をしております。

砂丘づくりについても平成21年に

栽培100年を迎えて「北条砂丘」づくりを生産者印りが作詞・作曲・振付を考え、各イベントや販売先で披露すると共に「ホジコピー」というマスクটুকু ক্যালকুলেটরের স্ট্রাইপ এবং সাথে সাথে বিক্রি প্রচারের একটি উপায়।

風力発電と工農活動

また、北条町は地域の資源を活用し「風車と名探偵コナンに会える町」としてまちづくりを進めています。風力発電への取り組みは田北条町が平成10年から地元、鳥取大学との共同による風況調査が最初がありました。日本海から吹く北風・西風は砂丘農業に多大な悪影響を与え、その防風・防砂対策として松林を植林して参りましたが、この負の財産を風力発電へと活用したものであります。高さ20mから30mにして70mと、支柱を伸ばし3年間にわたり風況を調査し研究する中で、事業実施可能かどうか結果を得て取り組みました。松林と国道9号の間に1、500kW/hの風車を9基設置し、その総事業費は28億円とつの事業であります。その当時の当初予算が約30億円です。その当時の補助金7億円があつたにしても大変な金額であります。風況調査の成果を裏付けに、住民説明会の開催や議会に説明をし、理解を得て、そしてまた土地の交渉や電力会社との売買交渉、1年にわたる渡り鳥の調査等を行い、平成17年に事業着手、11月に本格稼動し5年を経過し

た所であります。当初は皆さんに大変うしてだ、故障か」等連絡がありましたが、現在まで順調に稼動し、計画通りに発電しています。今は皆さんは風車が回っているのが楽しみのようだ、

風車が元気で回っている姿を見て、自分が元気をもらいつか、風車の羽根の方向で風の方向がわかつたりして喜んでおりります。因みにこの風車に

より、約6,600戸の家庭に電力供給ができ、年間13,300tのCO₂の削減にもなっています。そして自治体直営では全国最大規模となっています。この風力発電事業をきっかけに本町は、環境にやさしくまちづくりに



園、学校でエコ活動に取り組んでおり
ます。

町民参加型のまちづくり



また、平成21年には、「風車から世界にとどけ エコの風」をテーマに第14回全国風サミットを開催し、これらの風力発電事業についての講演や、平井鳥取県知事にも出席していただきのパネルディスカッション、そして本町の取り組み、エコクラブの発表、町民有志によるスマートドライブ・チーニング等の発表を行い、盛会裡に終了いたしました。

本町では全てのイベント・大会等は町民参加型の実行委員会方式を取り入れており、町民と行政がコラボしたものとなつており、この大会も多くの力を入れています。町ではあまりないと思いますが、環境に特化した環境政策課（現在は生活環境課）を設置し、色々な事業に取り組んでいます。太陽光発電設置事業、菜の花プロジェクト、北栄町版環境家計簿、全自治会に環境推進員の配置、BOPFの取組み、LED防犯灯の設置、地球温暖化対策実施計画の策定等、そして保育所の園児から中学校までの全ての子ども達が、子どもエコクラブに加入し、それぞれの



▲一村一品 最優秀賞受賞

町民のボランティアに支えられて実施したものがありました。この年には経済産業省による新エネ・省エネ100選に選定されました。

また、平成22年2月には、環境省主催のステップ温暖化「一村一品大作戦全国大会2010」において風力発電を始め数々の環境施策が認められ、見事、最優秀賞に選ばれ大いに喜んでいます。

同じく環境省主催による「環境・共生・参加まちづくり」も受賞し、一重、三重の喜びであり、町民と共にこの快挙を分かち合いました。県下でも、環境といえば北栄町といわれるくらい浸透していますが、更に住民周知をはかり全国一の環境の町を目指して頑張りました。

本町では、青山剛昌氏の少年時代の作文、絵画から仕事場の再現、コナンのセル画やトリック等、素敵な品物が展示していますし、ここでしか買えないコナングッズの販売もあります。最近は国内だけでなく台湾、韓国、中国等、海外おられます。旧北栄町時代からコナンや蘭ちゃんのブロンズ像の設置や、コナン通り、コナン大橋の整備、毎年7月第1日曜日に開催される「スイカ長いも健康マラソン大会」での参加賞のT

名探偵コナンに会える町



また、本町は「名探偵コナン」の作者である青山剛昌氏が本町出身である事から、コナンのまちづくりをしております。旧北栄町時代からコナンや蘭ちゃんのブロンズ像の設置や、コナン通り、コナン大橋の整備、毎年7月第1日曜日に開催される「スイカ長いも健康マラソン大会」での参加賞のT

季節毎にコナン館で色々なイベントを実施しています。また、明治大学の連

から仕事場の再現、コナンのセル画やトリック等、素敵な品物が展示してありますし、ここでしか買えないコナングッズの販売もあります。最近は国内だけではなく台湾、韓国、中国等、海外からのファンの来館も増えています。またコナン通りには単行本の表紙の図柄の石版画モニュメントを設置したり、

携で、学生達と「マンガ寺子屋」を開催し、マンガイラストの募集・表彰、青山剛昌と話す会等を開催しました。今後も引き続き取り組み、更なるPRを行い楽しい施設として多くの人が来館されるよう頑張っていきまます。平成23年はバイクのナンバープレートにナンバーフレームを入れるよとに考えていまし、住民票等はすでにコナン図入りのものを使用して喜んでおりまます。鳥取県にはNHK朝ドラの「ゲゲゲの女房」で有名になりました、妖怪の町、境港市に鬼太郎の水木しげるロードがあり、多くの観光客で賑わっています。まだまだその足元にも及びませんが、世界で唯一の施設・キャラ



▶「青山剛昌ふるやまと館」内部(一部)

す。鳥取県にはNHK朝ドラの「ゲゲゲの女房」で有名になりました、妖怪の町、境港市に鬼太郎の水木しげるロードがあり、多くの観光客で賑わっています。まだその足元にも及びませんが、世界で唯一の施設・キャラ

クターとして、オンラインのまちづくりに向けて頑張っています。また、平成24年には鳥取県で世界マンガサミットが開催されます。まだ具体的な内容は検討中ですが、会場の一つとして本町が選定されるのは確実であります。県及び県中部の市町で構成する広域連合と共に楽しյプランをして、海外からのマンガ家やアニメファン、そして国内の多くの方に喜んでもただけるよなサミットにしたいと考えています。平成23年はそのプレ大会として色々な取組みを考えていましたので、来町していくだだれいじを楽しみにしておまます。

本町は先に述べたように、農業を基幹産業とした町であり、「風車と名



▲すいか・ながいも健康マラソン大会



▶由良川イカダレース大会

4月には福祉事務所を開設し、住民と身近に接する事によりサービスの向上を図っています。そして、4,000人規模の「スイカ・長

探偵コナンに会える町」としてまちづくりを進めていますが、その他にも色々な施策に力を入れています。特に「子育てするなり北栄町」「教育するなり北栄町」をキーワードに幼保二元化による幼児教育の充実や、学力向上による教育力アップ等、これから未来を担う子どもたちの人材育成に取り組むようにしています。また、平成23年

4月には福祉事務所を開設し、住民と身近に接する事によりサービスの向上を図っています。そして、4,000人規模の「スイカ・長

探偵コナンに会える町」としてまちづくりを進めていますが、その他にも色々な施策に力を入れています。特に「子育てするなり北栄町」「教育するなり北栄町」をキーワードに幼保二元化による幼児教育の充実や、学力向上による教育力アップ等、これから未来を担う子どもたちの人材育成に取り組むようにしています。また、平成23年

中で平成19年には本町の最高規範となる「北栄町自治基本条例」を町民主体で策定し、町民との協働によるまちづくりを進めて参ります。また平成23年1月には、「人と自然が共生して、事業を実施して参りました。その像に、これも町民手作りによる今後10年の中の方向性を示す「北栄町まちづくりビジョン」を策定いたしました。今後は北栄町自治基本条例を基に、北栄町まちづくりビジョンに沿って住民と共にまちづくりを進めて、北栄町に住んで良かったと誇れる町に向かって更に邁進して参ります。

結びに

目指すは「飯南アーバンドーム」

いのち彩る里 飯南町

島根県飯南町は平成17年1月1日に旧頓原町と旧赤来町の2町が合併して誕生いたしました。

島根県と広島県との県境に位置する本町は、中国山地の中央部に位置し北西には大山・隱岐国立公園三瓶山、東側には大万木山や琴引山の標高1,000m級の山々が連なり、面積の約9割を山林・原野が占める緑豊かな自然に囲まれた高原の町です。総人口5,523人2,127世帯（平成24年1月1日現在）で標高が約450mの本町は年間平均気温が12℃前後と県下でも有数の高冷地帯で、冬は寒さが厳しく豪雪地帯でも知られています。

まちの基本理念に『小さな田舎（まち）からの「生命地域」宣言』を掲げ、中国山地の自然の恵み、神戸川の源流、斐伊川・江の川へ注ぐ清流、里山に暮

らす人々の暮らしを生命地域と位置づけ、「豊かな自然を活かしたまち」「安心して暮らせるまち」「住民参画による育てるまち」を本町のまちづくりの将来像としています。

今飯南町が直面している危機

さて、飯南町は今、転機を迎えるところです。本町には南北に松江市と広島市を結ぶ国道54号線が縦断しており、山陰と山陽を結ぶ重要な役割を担ってきました。歴史的にみても石見銀山から銀の輸送が盛んに行われ、陰陽を結ぶ宿場町として栄えてきました。

しかし、平成24年度にはこの国道54号線に並行して本町の東側に中國横断自動車道尾道松江線が開通する予定です。県全体で見れば、広島方面からのアクセスがダイレクトになること期待する面もあるつかと思いますが、

本町としてはインターも無いことから、



島根県 飯南町 いいなんちょう

▲飯南町の冬景色

通過交通量激減により地域経済へ及ぼす影響が懸念され、これまで54号線の通過客や松江・出雲・広島方面のリピーター客によつて支えられてきた飯南町にとつては大きな危機感を抱かざるを得ない状況にあります。

これからは「通過していただい」と無くなる事で、「飯南町を目標して来てくれる方」を作り出していかなければなりません。

私は飯南町役場産業振興課の中で観光振興を主として担当してきました。

①飯南町を知つていただい

(情報発信)

②飯南町に来ていただい

(誘客)

③飯南町産品を買つていただい

(販路拡大)

大きくこの3点を目標に職務にあたつてきました。

飯南町と言えば・・・

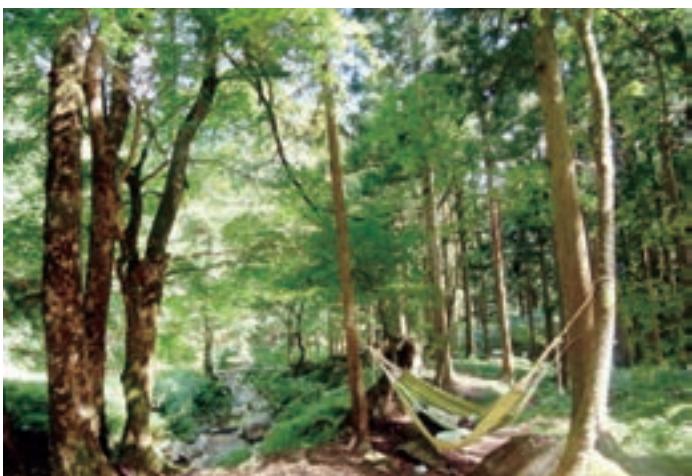
てどんな町なのが知つていただい必要があります。

ではイメージも定着しないと考えます。そこで本町では「一点突破」として観光では【森林セラピー】特産品では【やまと芋】を筆頭に掲げ、飯南町のイメージ作りを図ることにしました。

県下の良質米、高原野菜、奥出雲和牛、メロンやいちじくなどの果樹、そばに椎茸などなどこれをどうでも自信を持つて薦めるものですね。

しかしながら「飯南町と言えば」といった時に常にバラバラな回答してい

ました。そこで、森林セラピーは、森林セラピー基地に認定され島根県では唯一の基地です。森林セラピーは、森林浴の持つ癒し効果を医学的に解明し、科学的根拠に基づく健康増進メニュー



▲飯南町の特産やまと芋

により、心や身体に元気を取り戻すといつ取組です。四季を通じ様々な自然に触れ合ふことが出来ます。

そして、【やまと芋】は、やまのこも類の中でも最も粘りが強く、特に高原地域である本町で生産される芋は、昼夜の寒暖の差が激しく濃厚な旨味が特徴で、島根県内でも唯一の産地です。

一点突破の意味するところは、この2つだけを推進するところの意味ではありません。他地域には無いこの2つでまずは飯南町を知つていただいことで、その他の素材も必然と知つていただいところにならうと思つておき。

平成17年に合併して出来た新町「飯南町」。町の名前の変更はこれまで積み上げてきた町のイメージを一気にゼロにしてしまった事は合併の弊害とも言えるかもしません。まあほいの「飯南町」が何県のどこの町なのか、そして

▶ハンモックで森林浴

▶紅葉の森林セラピーロード

情報発信の取組

飯南町を知つていただけたといれまし。多くのイベントを開催、出店してもありました。近隣の大都市広島市を中心に、関西、関東と可能な限り、出かけてはPRに努めました。森林セラピーをP

Rするために、時には町からトランクで木や草花を運び込み屋内に森を作つてみたり、時にはハンドマッサージをしてみたりとありとあらゆるPRを試みました。「うちのイベントにも来てくれないか」と声を掛けられることが少なくななく、おかげで色々なイベントにお誘つていただきPRの場が増えてました。円の半分以上イベントで出かけることも多々あり、自分が役場職員であることを忘れる時すらあります。

やまと芋もそいつです。

全国的にはマイナーなやまと芋を地道にPRするに、芋のみならず飯南町の農産物の評価が高まり各地で産直市を開催あることができましたし、多くの販路も獲得できました。

その結果嬉しこと

して、積極的に出かけていって「飯南町ファン」が増え、飯南町応援団としてイベントのお手伝いや、ロコモでPRをしてくださる方が増えま



▲飯南の森フェアで、飯南町をアピール

◆島根フェアでは、やまと芋の粘りをPR



やまとマニアになつて欲しいとの願いを込めて名づけ、飯南町の日々の暮らしや発見をブログに綴つたり、イベント情報観光情報を発信しています。他の業務をこなしながら常にブログなどを更新する点に苦慮していますが、アクセス数が向上するといふとそんな苦労も吹き飛びます。

また、同様に「せとやまにお商店」という飯南町の特産品がネットで買えるオンラインショップもあります。中でも一番人気なのは奥出雲和牛で全国各地から注文をいただけてあります。もちろん田舎のやまと芋も販売しておりますので一度ご覧いただければと思ひます。

このインターネットでの課題は、いかに「飯南町」「せとやまにお」という文言を打ち込んでいただき検索していただぐかとい

う点です。その情報発信の手法としてイベントでのPRのほかにメディアを活用してPRをしました。具体的にはテレビCMの作成、「ラジオでのPR



▲濃厚な旨みと粘りが特徴のやまと芋

情報発信の手法としてインターネットの活用も手がけています。さりに「さとやまにお」という名前で飯南町攻略サイトを立ち上げました。さと



▲さとやまにおロゴ

です。CMを流すことで全国各地からのアクセスが増えました。

イベントでの口コミ情報発信、インターネットを活用した情報発信、メディアを活用した情報発信と複合的にPRすることで効率的に認知度の向上が図れたと思っております。

受け入れ体制は

並行して地元の受け入れ体制についても整えています。特に森林セラピーについては、現在4箇所のセラピーステーションがあります。いかに他



▲若手スタッフの熱いミーティング



▲森林セラピーステーションにある宿泊施設「もりのす」

のセラピーステーションとの差別化を図るのか、ただの山歩きと思われない工夫、セラピーを絡めた体験企画、地元食材を使った料理など現場若手職員と運営する民間企業の若手スタッフが日々喧々諤々とミーティングを重ねています。全国の森林セラピーステーションの中でも唯一宿泊施設があるのは飯南町です。そこを大きな強みとして今後も企画立案、そして最も重要なのがガイドの育成を進めていき、どの地域にも負けない森林セラピーステーションを構築します。

目指すは「飯南ブランデー」



▲地元食材を使った「もりのす」コース料理

飯南町役場産業振興課

主幹 奥野 憲孝

(平成24年1月30日付第2787号)

→「飯南町に住んでいただく」そんなストーリーを描き、そのための手段の一つとして、そういう町になれる、そういう町だと感じていただけ、そしてそんな町にある特産品や観光スポットに付加価値がつくところが目指す「飯南ブランデー」と思っています。

〈追伸〉

飯南ブランデーをPRするために生まれたキャラクター。以前は「ごくにゃん」ですが、どうかでお会いすることができれば仲良くなれたらうれしいですね、



▶飯南町のマスコットキャラクター
「にゃーにゃん」

↓「飯南町のファンになっていただけ」

目的は「定住」であり、「飯南町を知つていただき」→「飯南町に来ていただき」→「飯南町を感じていただき」

→「飯南町のファンになっていただけ」

「A級グルメ」と「日本一の子育て村」の推進により 雇用の創出と定住人口、観光交流人口の増加を目指す

夢響きあう 元氣の郷

私たちの町「邑南町」は、平成16年10月1日に旧羽須美村、旧瑞穂町、旧石見町の2町1村が合併して誕生しました。

四季折々に彩りを見せる山々、清らかに流れる川、豊かな大地が育む産品、そして自然の恵みを受けながら脈々と受け継がれてきた風土や伝統文化が息づき、「誰もが心いやされる」魅力満載の邑南町です。

邑南町のまちづくりは、「和」のまちづくりを基本理念とし、「夢響きあう 元氣の郷づくり」の実現に向けて、住民総参加で取り組むこととしており、それぞれの地域の特性を生かし、人情味や風土を守りながら、この地に暮らす人々が誇りと生きがいを持ち、「住みたくなる、住んでよかったです、住

み続けたい」と思えるまちづくりを目指しています。

夢実現に向けた基本方針は、「協力」「協働」「協調」による、住民主体のまちづくりであり、平成19年4月には「まちづくり基本条例」を制定し、まちづくりに参加する権利や情報の共有化などを具体化することにより、町民と行政が協働して自立したまちづくりを進めることができます。

どこの町にあるの?・どんな町?

邑南町は、島根県中西部に位置し、西側は浜田市、北側は江津市・川本町・美郷町、南側は広島県安芸高田市・北広島町、東側は広島県三次市に囲まれ、中山間地に代表的な盆地の多い地形で、標高は100m～600mの地域です。また南西部には1,000m級の急峻な地形も分布しています。



島根県 邑南町 おおなんちょう

邑智郡の南部に位置していり、また「圓」は「ムラ」とも言い、人が寄り集う南の明るい地ということから邑南町の命名となりました。町章は邑南町の漢字の「圓」をモチーフに、町づくりのテーマ「和」から輪がふれまい、大きな輪を創つていくことをイメージしています。最近では知名度アップのため「おおーなんと癒しの邑南町」と言っています。

合併時的人口は13,455人、5,251世帯でしたが、現在は11,985人、5,065世帯（平成23年8月1日）と減少しています。高齢化率は39・4%と高く、少子高齢化が進行しており、定住対策、少子化対策に取り組んでいるところです。

面積は419・22km²と県内町村では最も広く、内86%を山林が占めています。産業就業人口比率は、第1次産業25・1%、第2次産業21・5%、第3次産業53・0%となっていますが、水稻、畜産、野菜を中心とした農業の町です。

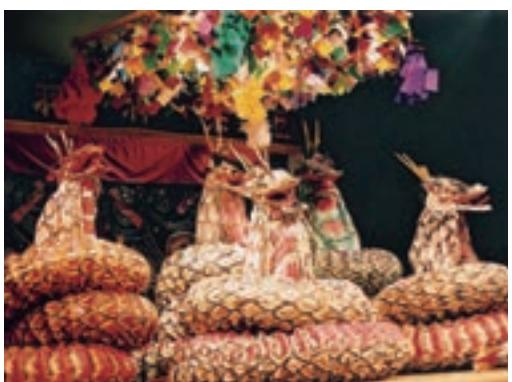
自然・文化・歴史を生かした地域づくり

自然豊かな本町には、ハンザケ（国



▲瑞穂ハンザケ自然館と飼育されているハンザケ

の天然記念物オオサンショウウオ）が多く生息し、調査結果では町民と同数の頭数がいるといわれています。また、夏にはゲンジボタルをはじめ数種のホタルが乱舞し、ホタル鑑賞ツアーも行なわれています。町の東部には約1千万年前は海だったことから動植物を始め貝などの化石が見られる高海地区があります。自然との共生をテーマとしたミュージアム「瑞穂ハンザケ自然館」にはハンザケが多数飼育されており、自然環境を学ぶ学習「ア施設として多くの来館者が訪れます。



▲伝統の舞「石見神楽」

島根県は神話の国です。邑南町には16社中の神楽団と3団体の子ども神楽団があり、神話を題材とした舞「八岐大蛇」などの石見神楽は広く愛され、伝統芸能として受け継がれています。

邑南町は、中世以降盛んに「たたら製鉄」の原料となる多量の砂鉄を探取するための「鉄穴流し」が行なわれ、鉄穴流して採取した砂鉄と豊富な木炭で「たたら製鉄」を行い、「出羽鋼」と呼ばれた良質な鉄が生産されました。映画「もののけ姫」は邑南町を含む中国山地一帯が舞台になつていると私は思っています。また、町の中心部は「於保知盆地」と呼ばれる盆地となつてあり、鉄穴流しで残された緑の丘



▲久喜・大林銀山の鉱山跡

そのほか邑南町には、断魚溪、千丈渓や滝などの自然スポットや、神社仏

所を超す間歩（坑道）や精錬所跡などが残されています。

【鉄穴残丘】や、島根県産の石州瓦の赤い屋根と白壁がよく調和し、「日本のスイス」とも呼ばれています。平成19年にユネスコの世界遺産として登録された島根県大田市の「石見銀山遺跡」は有名ですが、邑南町にも石見銀山に匹敵する「久喜・大林銀山遺跡」が存在します。鎌倉時代の1190年に発見されたと言われ、16世紀の戦国時代には石見銀山を含め銀山の争奪戦が繰り広げられました。江戸時代に入ると天領として栄えた久喜・大林銀山は、明治時代に入つて銀銅・鉛などを産出す鉱山として発展し、明治の終わりに廃坑となりました。久喜・大林銀山には、現在も400か所を超す間歩（坑道）や精錬所跡など

邑南町では、これまでも限られた財源を最大限に活用し様々な定住対策を行なってきました。生活環境では道路や上下水道の整備を行ない、普及率は

「日本一の子育て村」の推進で更なる定住対策
閣など様々な歴史建造物が存在します。邑南町には12館の公民館があり、それぞれに非常勤の館長、専任の公民館主事（町職員）と臨時職員を配置し、これまで紹介した様々な自然、文化、歴史などの資源を活用し、自治会などの地域コミュニティと協働しながら、地域を担う人材の育成と地域づくりを進めています。



▲邑智病院内のドクターへリポート

南町の総人口は、国勢調査結果では平成17年の12,944人から平成22年の11,966人と978人の減少となりており、0歳から18歳人口も平成17年の1、902人から平成22年の1,660人と242人減少しています。出生数は、近年75人前後で推移しており、婚姻件数は近年30件台、未婚率は

90%となっています。保健福祉分野では、公立邑智病院の充実や各種健診費用の助成、保育料の軽減など様々な子育て支援、情報通信では全町に光ケーブル網を整備し、高速インターネット・IP電話による無料通話体制や見守りネットサービス、雇用の場の確保としては企業誘致を進め、現在8社の誘致企業があります。また、ハーブを栽培、販売する香木の森公園での研修制度や農業研修制度も実施し、全国から研修生を受け入れ28人が定住しています。さらに無料職業相談所の開設や定住支援コーディネーターの配置により、就職や住宅相談、空き家提供機能も充実



▲夏にはマウンテンバイクも楽しめる西日本最大級の「瑞穂ハイランド」スキー場



▲おおなんケーブルテレビ局



どの年層においても未婚の割合が増加しており、男性、女性ともに未婚化、晩婚化が増加しています。合わせて小中学校の児童、生徒数は年々減少傾向にあり、県立矢上高校の生徒数も町外からの生徒確保で何とか維持できている状況です。

こうした状況を踏まえ、平成23年度から思い切った支援を行なうこととしました。そのひとつが子育て家庭の誘致です。子育て世帯援も行なってまいりました。



と思っています。「子育てするなら岡南町で」を合言葉に、「日本一の子育て村」をピーアールするステッカーを町長専用車を始め、全公用車に貼り、定住対策に取り組んでいたりとか。が生まれれば現在の人口を維持できる



▲町長専用車に貼った「日本一の子育て村」ステッカー

と思っています。「子育てするなら岡南町で」を合言葉に、「日本一の子育て村」をピーアールするステッカーを町長専用車を始め、全公用車に貼り、定住対策に取り組んでいたりとか。

A級グルメで地域振興

代の経済的負担の軽減対策として、「第2子以降の保育料の全額無料化」や「中学校卒業までの医療費の無料化」を行なうこととしたしました。そのほか一般不妊治療費助成、子育て支援手当の充実、放課後児童クラブ費減免制度、医師・医療従事者奨学金制度、農林業後継者育成基金の創設などがありますが、これらは子育て支援策の一部です。



▶町内産品を活かしたコースメニュー

岡南町は前述のように米を中心にお野菜や椎茸栽培、畜産などの農業が営まれている町です。近年は公共事業の減少や6次産業化のブームもあり、建設業者の農業など新分野への参入も盛んになってまじりました。以前は米は農協へ、野菜は農協を通じて広島市場へ出荷されるのがほとんどでしたが、産直市場が建設されると小規模生産農家などから農産物や加工品などが出品されるようになりました。

町ではこれらの産品を売り出すために、インターネット通販サイト「みずほスタイル」を開設して販売を行なつたり、東京を中心にして専門家やメディアを招いての食のイベントを開催してPRに努め、岡南町の産品は一定の評価を受けることができました。しかし、レストランやホテル、大手スーパーなどに商談を持ちかけても質の評価はあつたものの量が無いのが弱点でした。



▲地産地消レストラン「素材工房ajikura（味蔵）」

岡南町には、ハーブ米や高原野菜、未経産の雌牛200頭限定の石見和牛肉、石見ポーク、自然放牧牛乳、キヤビア、サクランボやブルーベリー、ピオーネなどの果樹、米粉パンやスイーツなどの特産品があります。また、独自の食品認定制度「ローレ・セレクション」を設置し「食」をキーワードにまちづくりを展開してきました。

町ではこれらの産品を売り出すために、インターネット通販サイト「みずほスタイル」を開設して販売を行なつたり、東京を中心にして専門家やメディアを招いての食のイベントを開催してPRに努め、岡南町の産品は一定の評価を受けることができました。しかし、レストランやホテル、大手スーパーなどに商談を持ちかけても質の評価はあつたものの量が無いのが弱点でした。

そこで発想の転換を図り、平成23年3月に「食」を切り口とした「農林商工等連携ビジョン」を策定して、地域振興を図ることとしました。近年、健康や食の安全性に対する消費者の関心の高まりがあるとともに、「B級グルメ」、「地当地グルメ」など「食」を核とした観光・交流事業の盛り上がりが見られる中、岡南町では「食」を今後の地域活性化に向けた重点テーマと位置づけ、農林商工等の異業種が連携し、「生産」「加工」「調理」「交流」の各産業分野の更なる革新と、それらの産業群を有機的につなぐストーリーの

創出に取り組む」としました。

そして、畠南町で生産される良質な農林水産物を素材とする、「(い)でしか味わえない食や体験」を「A級グルメ」と称し、①「食」関連産業の振興と雇用機会の拡大、②観光・交流人口の拡大と定住人口の増加、③農林水産物の付加価値の向上と販路拡大、④町民所得の向上を目指し、「A級グルメ立町」の実現」を図ることにしました。

平成23年から平成27年の5カ年で、
①食と農に関する5名の起業家の輩出、
②定住人口200名の確保、③観光入
込み客100万人の実現を目指します。

● 食のラボニアトリーで 「耕すシェフ」の養成

町観光協会では、温泉や公園のある香木の森公園の近くに、地産地消イ

タリアンレストランと加工場を併設した「素材工房 a-i-kura (味感)」をオープンさせました。これが「食のラボニアトリー(研究所)」であり、「A級グルメ立町」の推進役を担う実践施設です。レストランには東京から一ターンしたラボ主任研究員のシェフひとりのソムリエやパティシエを始めスタッフが食材の研究を進めながら

、キッチンで腕を振ります。

ラボニアトリーでは、野菜等の栽培から地元の食材を使った料理の提供までのプロセスを行い、町内で起業・就職を目指す「耕すシェフ(地域おこし協力隊)」を全国から募集し、現在2名のシェフが頑張っています。

産・学・官・民が連携した持続可能な地域づくり・人づくり

まちづくりの主役はあくまでも町民であり、町民がいつまでも心豊かに暮らせるまちづくりを進めるためには、



▲昨年開催した「INAKAイルミ@おおなん」



お客様を迎える「田舎ツーリズムの里」看板

町内の事業所や企業、学校、行政がそれぞれの立場で町民とともに協働することが重要です。

そのひとつを紹介すると、平成22年12月3日から5日の3日間開催した、日本一高い地上20メートルの「天空の駅」として有名なJR三江線「宇都井駅」と、周辺の棚田や赤瓦の屋根、川等をLEDでライトアップする「INAKAイルミ@おおなん」は、町内

LED製造メーカーと地域住民、観光協会、行政が一緒になって開催したプロジェクト企画でした。お蔭様で3日間で延べ約1万人の来場者があり、島

地域づくりは人づくりであり、地域で必要な人材は地域で育てることが重要と考えます。そのためには幼い頃から子育てに地域が関わり、地域の課題は地域で解決することが必要です。今後は、最大の課題である少子化対策に取り組み、少しでも若者が定住できるよう、オシリーワンの発想でまちづくりに挑戦し続けてまいります。

畠南町長 石橋 良治
(平成23年10月31日付第277号)

“人づくり”からの“まちづくり” —教育の魅力で全国から人を呼ぶ—

隠岐・島前・海士町の概要

隠岐島前地域は島根半島の沖合60キロほどに浮かぶ隠岐諸島の中の本土に近い西ノ島（西ノ島町）、中ノ島（海士町）、知夫里島（知夫村）の3つの離島で構成される。

島前の3町村ともに極端な過疎・少子高齢化、産業の空洞化に苦しみながらも、平成の大合併の折りには、互いに海を隔てた離島であるという地理的特殊性から住民視点での合併のメリットが見出せず、「合併しない」という決断をした。その後、三位一体の改革で地方交付税が町税額に匹敵する規模で大幅に削減され、島の経済雇用、生活基盤が根底から脅かされる危機的状況に直面。3町村それぞれ独自の地域活性の取り組みを始めた。

本町では、「先憂後楽」の精神で、

自主的な給与の大幅カットを伴つ行財政改革を断行。「まちづくりの原点は人づくりにあり」という信念から、少子化対策や次世代の人才培养などへ投資。そして、官民一体となり、地域資源を活かした産業創出に加え、充実した子育て支援と地域の未来を担う人づくりの施策を積極的に展開してきた。

忍び寄る危機 ～高校の存続問題～

本町には、島前3町村で唯一の高校である島根県立隠岐島前高等学校（以下、「島前高校」）があるが、激的な少子化の進行を受けて、この10年間で生徒数が半分以下に激減。全校生徒90人程度（全学年1クラス）となり、このままでは高校の存続が危ぶまれる状態となつた。

島前高校を失うことは島前3町村



▲第1回観光甲子園で、『ヒツナギの旅』プランが、見事グランプリ受賞



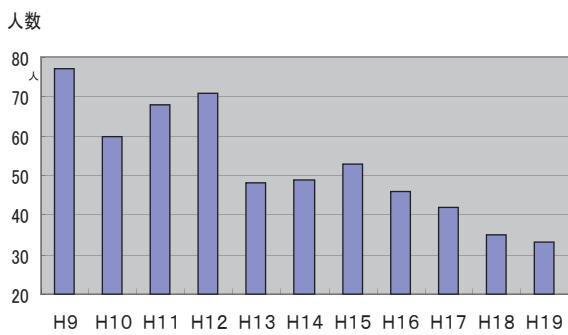
島根県 海士町 あまちょう

る問題なのである。

地域と学校の連携による 魅力化プロジェクト

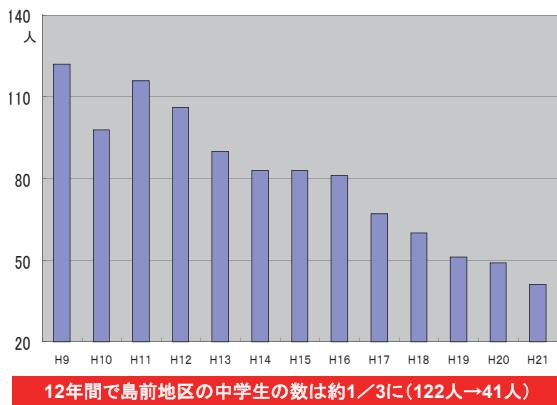
OG会会長等で構成」を発足し、高校改革の母体とした。

ここ10年間の島前高校入学者数推移



12年間で入学者数も半分以下に(77人→28人) (H20)

島前3中学校の卒業生総数の推移



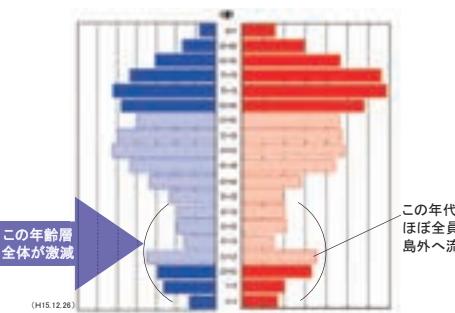
12年間で島前地区の中学生の数は約1/3に(122人→41人)

にとつて文化的・経済的に計り知れない損失となる。高校がなくなれば、島の子どもたちは中学卒業とともに島を

離れなければならなくなる。仕送り等（3年間一人の子どもを本土の高校に通わせると450万円程度）で家計にかかる負担は一気に跳ね上がり、子どもを持つ家庭の島外流出が進行する。また、子どもを持つ若年世帯層の島へのリーダーの激減や、教育費の負担増による出生率も低下する。

新たな雇用創出と教育・子育て支援の充実により、若者のリーダー層や出生数を増やし、持続可能なまちづくりを進めるという挑戦は、島から高校がなくなることで水泡に帰すことになる。更に超少子高齢化が急速に進み、人口構成が一層偏り、島の活力が急激に低下してしまつことも容易に想定される。高校の存続は島の存続と直結す

島前高校がなくなると。。。



※子ども一人あたり3年間で約450万円の負担 ⇒ 出生率の更なる低下
※子連れの家族の島外流出加速 + UIターンの激減
※Uターン率(約2割)の更なる低下 ⇒ 地域文化や行事の維持困難
※超少子高齢化が一気に加速 ⇒ 町村の自立・存続不能



▲地域活性の一翼を担う学校「隠岐島前高校」

公立塾 「隠岐國学習センター」設立

1人ひとりの力を最大限に
伸ばせる教育環境の整備

指針1

今までは、「島では、学力が伸びず大学進学に不利」という「常識」が根深くあり、大学進学を希望する多くの生徒は、中学卒業時に島を離れ「本土」の高校へと流出していく。こうした状況を打破し、離島であっても学力が伸

こうした潜在的な危機に対して、「ピンチは、変革と飛躍へのチャンス」という発想のもと、平成20年3月、島前高校と島前3町村による一大連携組織「隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の発展の会（以下「魅力化の会」）」・三町村長・三町村議長・三教育長・三中学校長・高校校長・PTA会長・OB

議会との意見交換会や、県・国との協議を何度も重ね、一年かけて島前高校の今後のビジョンと戦略を策定。その構想を島前3町村長と高校校長が合同で、県知事と県教育長に提言した。現在は、その構想実現に向け、高校の教職員と島前地域の有志による「魅力化推進協議会」も発足し、実質的な取り組みが開始されている。以下に3つの主な指針と2つの課題について述べる。

び、希望の進路を実現できる教育環境づくりを進めている。

一つは、今まで弱みだと見られてきた「小規模校」といつことを、「一人ひとりに手厚い指導が可能な少人数制」といつ強みと捉え、超少人数指導と充実した個別指導で一人ひとりの個性と学力を徹底的に伸ばし、国公立大学などへの進学希望も実現する「特別進学コース」を設置する。

平成21年度は高校教員の努力により、難関国立大学への進学者も出るようになつた。

また、平成22年度から高校と連携した公立塾「隠岐國学習センター」を設立した。大手予備校やハーバード大学進学塾などでの指導歴を持つ経験豊富な講師や、生きる力や起業家教育に関する特別授業を全国で展開してきた指導者に加え、OCR（情報通信技術）や最先端の教育メソッドなども活用していつ。に戻り、「地元を元気にしたい」といつ

地域の未来をつくる人材の育成

指針2

地域創造コースの新設

従来、高校卒業とともに9割以上の子どもが島外に出て行き、いつか島

産業をつくりに帰りたい」といつ地域起業家精神を育成する必要がある。

そこで、次世代の地域リーダーを育てる「地域創造コース」を高校に新

に帰つてくる割合（ロターン率）は3割程度であった。地域が自立し持続していくためには、このロターン率を上げていくことが重要である。そのためには雇用の場つくりや定住促進の施策を集め、その観光プランを実現化させていく。

今後はグローバルな視点で、地域ビジネスやまちづくりを行える人材を育てるための、高校生の観光大使派遣や海外研修、留学制度つくりなど国際交流も検討していきたい。

全国からも意欲ある生徒を募集

指針3

「島留学」の開始

島内の中学生を島前高校に囲い込む「やり」の戦略だけでは、少子化の地

域において中長期的な存続は難しく、島前地域外からも生徒が集まるような切り拓く人材の育成を目指す。



▲県内最強のレスリング部 目指すは全国制覇！

「攻め」の戦略が必要になってくる。また56人定員の寮が常時4～6名しか入寮生がおりず、赤字で苦しんでいたこともあり、県と協議し、県外からも生徒の受け入れを可能にし、全国からの生徒募集を開始。全国からの意欲・能力の高い生徒の確保により、地元生徒

への刺激と高校の活性化を目的とした、寮費や里帰り交通費等を補助する「島留学制度」も新設し、その財源は町職員や町議員の給与カット分を充てた。平成22年度の新入生の約4分の1は島外からの生徒だった。今後は、都市部の大規模校や進学校で物足りないを感じる「学力だけでなく人間力も身につけたい」といつ生徒に加え、自分の町や村が大好きで「将来は地元に帰りたい」「家業を継ぐ」「まちを元気に



▶全国から志ある生徒の募集「島留学」

する仕事がしたい」という地域リーダーの卵を各町村から受け容れ、地域起業的な資質をしっかりと鍛えた上で、将来地元に戻って活躍できるように送り出していきた。



▲大阪の進学校からきた生徒

8名と算定される。当然8名では高等学校の運営はできないので、県からの加配と、町からの4人（社会教育主事、魅力化事務局、図書館スタッフ、事務スタッフ）の派遣を行い、それでも非常に多忙な状況である。今後は、中山間僻地や離島の小規模校における教育機会均等の実現に向け、他の町村とともに国の法改正と教員数の確保を強く要望していきた。

島前高校の管理職は2年おきに変わつていて、島に単身赴任し、少し慣れたと思ったらすぐに「本土」へ戻されるような状況では、どうしても中長期的な視点にたつた改革はやりにくく。教育は2年や3年で形になるものではなく、ましてや地域と連携した学校経営を行うには、継続性が重要になつてくる。そこで、地域が学校経営にかかり継続性を担保できる、持続可能な仕組みづくりを進めていきた。

魅力化の先に

若者の定住と持続可能なまちづくり

これまで過疎地には、「産業さえあれば人は離れない」「雇用の場さえあれば若者も戻ってくる」という幻想があつた。しかし、今の子どもを持つ20代後半から30代の感覚は違う。特に高学歴層ほど、「子どもにより良い教育を受けさせることが出来るならば、多少の犠牲や負担も厭わない」という意識が高まっており、雇用の場だけでは優秀な人材は定着しない。これからは産業に加え教育や子育て支援を含めた総合的な取り組みが、子育て世代の若者の流出を食い止め、逆に子連れ家族のリーターンを呼び込むための鍵になるであろう。豊かな自然と文化に囲まれ、人のつながりが深く、安心安全な地域であるとともに、学力も人間力も伸びる教育環境を整えることで、「子育て島」としての教育ブランドを築いていきた。

町村にとつて、少しでも参考になるのであれば本望である。また、逆に何か情報があれば、是非ご教授いただければ幸いである。

海士町長 山内 道雄
(平成22年6月14日付第27223号)



▶生徒の姿が地域の未来 地域絆がかりで未来をつくる

教員数は、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」（以下標準法）により、各学校の収容定員（学級数・生徒数）に応じて全国一律の基準で算定される。この法律は昭和36年に学校の適正規模化を目的に制定された当時ままで、島前高校のような小規模校であれば教員数は

り、人づくりに投資しない限りは、生き残つていけない。これは島前をはじめとする多くの町村が直面している状況であると同時に、これから日本が直面する状況でもある。いじでの試行錯誤が、同じような課題を抱える他の町村にとつて、少しでも参考になるの

資源の乏しい島国においては、ヒート・ワザ・チエジングが最大の資源である

小さいからこそできる! きぬ細やかなまちづくり —単独町政を歩む町の挑戦—

はじめに

奈義町は、岡山県の東北部、中国山地の秀峰那岐山（1,255m）の南麓に広がる四季折々の美しい自然に恵まれた町です。

全国的に市町村合併が行われる中、平成14年に合併しないことを選択し、「小さいからこそできる！きぬ細やかなまちづくり」を目指して、町民の皆さんと力を合わせながら、住んでよ

かつたと思えるまちづくりを推進しています。町の特徴の一つとして中四国で唯一の実弾射撃演習が行える日本演習場があり、昭和40年には陸上自衛隊日本原駐屯地を誘致し、自衛隊との共生共栄を基本理念としたまちづくりに取り組んでいます。

独自の定住促進施策



▲自衛隊と町民の交流

近年の少子高齢化により年々人口が減少し、高齢化率も29%にまでなりましたが、人口減少に歯止めをかけるため、町独自の若者定住施策を行っています。第3子以降を出産した方に交付する「出産祝い金」、大人や子どもが一緒になつて「ミニユースーション」とれる子育て情報交換施設「なぎチャイルドホーム」の設置、出生から中学校を卒業するまでの「医療費の無料化」、中学校を卒業し高校に進学される方へは「就学支援金」として一律5万円を交付、中高生を対象に他市町村に先駆けて「子宮頸がんワクチンの



▲山の駅



岡山県 奈義町 なぎちょう

町民主役のまちづくりを推進する

町民参加のまちづくり

無料接種」、町営分譲地内に子育て世代を対象にした「若者向けの賃貸住宅」の建設など、これらのかね細やかな町単独事業を実施するににより、「若者が住んでよかったですと思えるまちづくり」「安心して出産・子育てができるまちづくり」を目指しています。

ため、ボランティアによる「町民参加の町づくり実施要綱」を策定しています。平成14年には、シルバー世代を中心とした様々な分野から技能や技術を持った町民の力により、クラブハウスを備えた3コース24ホールのグラウンドゴルフ場が整備され、町民の健康づくり施設として多くの人に利用されています。

これからも、町民ができることは自ら取り組み、行政との協働のまちづくりを進めていきます。



▲介護予防施設「ウォーキングプール」



▲町民の手によって整備された「グラウンドゴルフ場」

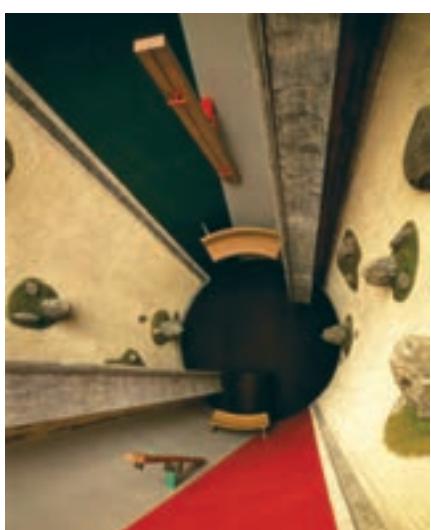
融合したまちづくりを行っています。約1600万年前の巻き貝「ビカリア」や一枚貝、古代の植物が化石となつて出土しており、特にビカリアの出土地としては国内最大といわれています。

この資源を活用した施設「ビカリアイミュージアム」は、ビカリアをはじめ動植物の化石30種類約300点を展示



▲太古のロマンに触れる「ビカリアイミュージアム」での発掘体験

◀江戸時代から続く「横仙歌舞伎」



示しており、実際に発掘体験もできる太古のロマンに触れる」とのできる貴重な施設となっています。

また、江戸時代から受け継がれてきた「横仙歌舞伎」は、岡山県の重要無形文化財にも指定されており、農村歌舞伎の姿を現在に伝える伝統芸能として、地元保存会により年4回「四季の公演」を行い、保存伝承活動が行われています。さらに、伝統芸能を町の子ども達に伝えていくため、小学校の授業を活用して歌舞伎教室なども開講しています。

奈義町現代美術館は、建築家磯崎新氏プロデュースのもと現代美術を代表する3組の作家が創り上げた建築と芸術作品を融合させた、太陽・月・大地の三つからなる空間的作品で、空間の形や光、視点と感触、過ぎゆく時間とありゆる要素が一体化した国内外



▲「那岐山麓山の駅」からの展望

▼休日はたくさんの家族連れでぎわう「山野草公園」



また、山の駅に併設して設置している約3・4ヘクタールの「山野草公園」には、オキナグサやチヨウジソウ、サギソウなど、山野草20種類、約2万本が植栽されており、四季折々に咲く可憐な花が、訪れる人の心を和ませてくれます。中には絶滅

提寺の境内にそびえる「大イチョウ」は、樹高約45m、目通り周囲約12m、指定樹齢900年を越え、岡山县唯一の国の天然記念物にも指定され県内最大の巨木です。

おり、その菩提修業した寺とが幼年時代に祖・法然上人が修業した寺として知られており、その菩提



に誇れる体感型の美術館です。

また、那岐山の中腹にある菩提寺は、浄土宗の開祖・法然上人

奈義町の恵まれた自然を体感することができます。ことができる「那岐山麓山の駅」は、農業体験や加工体験ができるよう、コテージや研修室を併設した滞在型リゾートスポットです。那岐山周辺の

様々なアウトドアレジャーの拠点としてはもちろん、館内には特産品ショッ

プや、地元の食材を活かした料理を楽しめるレストランなど、様々な角度から奈義の自然を満喫することができます。また、山の駅一階には展望ベランダがあり、標高400メートルから見下ろす町並みや豊かな山並み、早朝の雲海などは、圧巻の景色です。

また、山の駅に併設して設置して

危惧種にも分類される貴重な山野草も植栽されています。奈義町で

は、先人の方々が守ってきた那岐山麓一帯に自生しているこれらの植物を保護し、種を保存する活動を行っています。

近くには、美しい癒しの景観を引

き立てるように、手すりの赤が印象的

な天空橋が架かっています。天空橋か

らは山野草公園が見下ろせ、空と緑の

溶け合つ風景が楽しめます。

また、園内には自然の草花を楽しむ

だけではなく、水遊びのできる渓流や

遊具広場があり、子どもから大人まで

都市と田舎を結ぶ観光資源

に誇れる体感型の美術館

▲遊休農地を再生した3haの「菜の花畠」



◀100%町内産の「菜種油」

若者が夢の持てる農業を目指して



町の基幹産業である農業は、米や野菜、黒大豆などを中心にした耕種農家と酪農・牛の肥育・養豚・養鶏の畜産農家とが耕畜連携を図り、有機堆肥を活用した「環境にやさしい農業」の推進を図っています。

環境にやさしい農業に取り組んでいる町内のエコファーマーが丹精込めて栽培したお米「エコ米」は、地産地消を推進することも食育にも力をいれ、米飯給食や米粉パンとして小学校の学校給食にも提供し、モチモチしておいしいと好評を得ています。

また、町の特産品の一つに里芋が挙げられます。奈義町には「黒ボク」と呼ばれる真っ黒い色をした火山灰土が広く分布しており、この柔らかく栄

一緒に遊べる憩いの空間となっています。

平成22年度から資源循環リサイクル

事業の一環として、3ヘクタールの遊休農地を再生して菜の花を栽培しています。収穫した菜種は、昭和初期の伝統的な搾油機で搾油し、純町内産の菜種油として山の駅レストランで特産の黒豚のカツを揚げる油として使用するとともに、特産品としても販売しています。



◀特產品の里芋やアスパラガス、白ネギをモチーフにした「さと丸くん」

農業の振興を図るといった基幹産業である農業にまつわるところによつて、町内産農畜産物の販路拡大



▲町内産の安全安心な食材で作られる米粉パンの学校給食



▲金丸弘美先生の話を熱心に聞く山の駅従業員

養分に富んだ土壤からできる里芋は、粘り気が強くモチモチとした触感で食味が良いと好評をいただいています。この里芋をモチーフに作成した農産物PR用のマスク「コットキヤラクター」は、「さと丸くん」の愛称でたくさんの方に親しまれています。

これから農業は、若者が夢の持てる産業にすることが必要であると考えています。

地域の特産農畜産物の生産だけではなく、生産・加工・販売を一元的に行う6次産業化や恵まれた自然景観や歴史と文化、観光資源などを活用し、農業と商業と観光が連携した、体験滞在型の観光施設を行い、人

を呼び込むことによって基幹産業である農業の振興を

「農業・商業・観光業が連携したまちづくり」を推進しています。

平成23年度取り組んだ地域力創造アドバイザー事業は、新たに地域独自の魅力や価値の向上に取り組むため、地域の課題解決に最適な講師を招へいして地域力の活性化を図ることを目的とした事業で、平成22年度7月から全国の農山漁村でまちおこしに携わっている食環境ジャーナリストの金丸弘美先生と特産品開発のスペシャリストである料理研究家の馬場香織先生をお迎えし、両先生のご指導のもと「いかに人を町に呼び込み、人を呼び込むことによって奈義町らしさや奈義町ならではの魅力を来町者に伝え、その中から定住化を促進し、町の活性化につなげる」といった方策を実践しています。

平成23年度の具体的な取り組みとしては、町内産の農畜産物を最大限に活用して加工する特



▲馬場香織先生による特産品開発の調理実習

◀町内産にこだわった米粉牛肉バーガー

わが町のこれから

急速に進む少子高齢化と地方分権が進展していく中で単独町政を歩んでいく奈義町では、町民の皆さんとともに町のあるべき姿・目指すべき姿を想い描き、その特色を最大限に活かす施策を効率的かつ効果的に行つことが求められています。

そのためには、今後も行政改革を進め、自主自立を高めた行政運営を行うことは勿論のこと、先人の方々が守り育んできた町をさらに充実させて後世に引き継ぎ、未来を担う子ども達が誇れる町となるよう、町民の皆さんと希望に満ちたまちづくりを推進します。

町は、これからも町民の皆さんと力を合わせながら、住んでよかつたと思えるまちづくりを推進していきます。

に向けた調査などを行っています。また、平成24年度以降はアドバイザー事業で進めてきた事柄を継続し実践していくため、都市部からの人材を積極的に受け入れ、新たな視点や発想を基に町のすばらしい自然・文化・人材を再発見していただき、「地域おこし協力隊」を募集することとしています。

産品の開発。都市住民や自然回帰志向の消費者ニーズを捉えた「農家民泊」を実施するため、その受け入れ体制の整備と田舎なうでの各種体験学習のメニュー化。町内産農畜産物をふんだんに使用した料理で来町者をおもてなしするため、町の観光拠点である「那岐山麓山の駅」レストランのメニューを全面改訂。農業者の所得向上を目的とした農産物直売所の販売戦略と生産体制の強化。町内産農畜産物の販路拡大

「黄福」なまちづくりへ

MISAKI YELLOW HAPPY PROJECT

個性豊かで活力と
魅力あるまちづくり

美咲町は、平成17年3月、平成の大合併により、中央町・旭町・樋原町が合併して誕生した町です。

岡山県のほぼ中央部に位置し、「日本棚田百選」にも選ばれた農村景観や岡山県三大河川の吉井川、旭川が流れなるなど美しい自然環境に恵まれています。基幹産業である農林業は、米を中心、特に山間地では「ユーピオ」や葉たばこ等の生産が盛んに行われ、中山間地域なりではの文化や産業を育んできました。

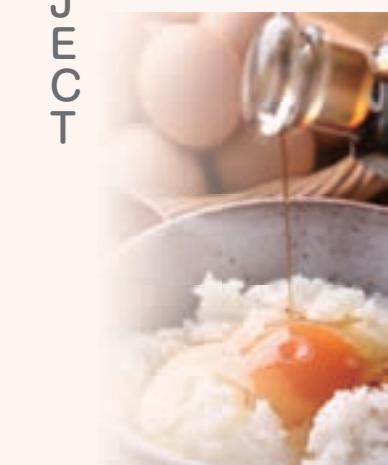
日本棚田百選に認定されている「大拼和西棚田」と「小山棚田」は、地区住民の手によつてきれいに保全された岡山県を代表する棚田です。豊かな自然や農村風景は郷土の誇りであり、特に大拼和西棚田は、標高400mの山間に、すり鉢状に850枚(42.2ha)の田が広がる全国的に珍しい、

スケールの大きな棚田です。四季折々に美しい表情を見せ、人々の心に安らぎを与えてくれる、まさに癒しの空間です。

町の人口は約16,500人。少子高齢化、過疎化が進む中、新町ストート以来の町の第一施策に「少子化ストップ」を掲げ、子育てしやすい環境づくりに力を注いでいます。また町のキャッチフレーズは、「世界にはばたく元気な町」。変革の時代に夢と希望を持ち、大胆な発想で様々な分野に向けて発展し、情報を発信していくことをイメージして掲げられました。恵まれた自然環境や地域資源を生かし、個性豊かで活力と魅力あるまちづくりを目指しています。

新町の知名度アップを模索

美咲町は、横並びの3町が対等合併して誕生した新しい町で、既存の町名を使わない、というのが合併協議で決められ、町名は一般公募されました。



岡山県 美咲町 みさきちょう

▲日本の棚田百選認定 大拼和西(おおはがにし)棚田

誕生する「新町」の形が花びらのよう見え、「人」も「自然」も美しく咲き誇る町になると願つて『美咲町』と命名されました。既存の町名を使わなかつことにより、町の知名度は低く、町内外の多くの方に、新しく誕生した『美咲町』という町はわかりづらかつたようです。

旧3町、そして新町がスタートしてからも行政施策の中に、「観光」の一文字が占める割合は少なく、1年を通して町内外からお客様が訪れる「観光地」もなく、もちろん、岡山県全体からみても「観光資源」が「豊かだ」といふ町ではありませんでした。

合併から2年経つた平成19年4月、旧3町、また新町になってからも初めての試みとなる「観光」と名の付く課（産業観光課）が新設されました。観光商材不足に頭を悩ませながら、初代美咲町長を中心とした、産官連携による、美咲町らしい「魅力」を関係者で模索する中、町の「観光」が少しずつ動き始めてきました。

まおは「卵」であれおーじ!!

初代美咲町長の食に対する、熱い思い、を原点に、町に「人」を呼ぶ目玉として、町内に西日本最大級の養鶏場があり、そこでは毎日多くの「アランド卵」が産まれていますことに着目。



▲素材としての「卵」が美咲流「卵かけごはん」へ変身

その「卵」
をヒントに
したまちづ
くりの第1
弾として、

誰もが知っ
ている、誰
もが食べた
ことがある、

じいの家庭でも簡単に食べることができる「卵かけご飯」の専門店の試行的なオープンを計画しました。

なぜ、美咲町は「卵かけご飯」だつたのか…?

その理由は、あとで紹介しますが、もちろん「卵かけご飯」に関するすべての「素材」は町内産にこだわり、合併した旧3町それぞれの土地なりでは既存の「宝物」と、ちょっとしたアイデアから、美咲流の卵かけご飯は誕生したのです。

卵かけご飯の店は、町の第3セクターが管理運営し、空き施設だった「食堂かめつち」を再利用して、平成20年1月にリーコーラルオープン。オープン以来「卵かけご飯」が珍しかったのか?それとも卵かけご飯で人を呼ぼうとした「美咲町」が珍しかったのか?メディアにも数多く取り上げられ、するとたちまち予想をはるかに上回る人が来店し、知名度も低く、観光資源の少なかつた町へ、「人」を呼び込むきっ

かけとなっていました。

当たり前なもので 「人」が呼べるのか!?

げたのが「安心安全な地元食材」と「美咲流卵かけご飯のストーリー」。全国

各地で立て続けに「食」の問題が明るみになり、消費者が不安を募らせる中、町内産の食材にこだわり、「安心安全」を掲げた卵かけご飯が一躍注目されることになったのです。

とは言え、一番はどこの家庭でも

先にも述べたように、「卵かけご飯」って、あまりにも当たり前な食べ物で、じいの家庭でも簡単に食べることができ、そして誰もが幾度と食べただある「家庭の味」。専門店のオープン前、またオープン後も、果たして「卵かけご飯で人が呼べるのか?」といふ声が、町内外のあちこちであります。

この取り組みで美咲町が大きく掲

美咲流卵かけご飯ストーリー! 4つのキーワード!

美咲流卵かけご飯のストーリーは、大きく4つのキーワードから展開されています。

①町内には西日本最大級の養鶏場があり、120万羽の鶏が毎日約100万個の「コクとうまみ」ある新鮮な卵を産んでいること。

②日本棚田百選に選定された棚田では、先祖伝来の農地を荒らすまいと、農家の方が愛情じ手間暇かけて作った棚田米があること。

③地元産の醤油をベースにアレンジした3種類（ねぎ・しそ・のり）の特製の卵かけご飯専用タレを開発したこと。

そして、何と言つてもストーリーの主役は……



▶立ち並ぶたまごかけごはんのぼりが、人を惹き付ける美咲町

④美咲町出身で、卵かけご飯をこよなく愛し、旅先でも卵を取り寄せて食していただ記述も残る明治時代を代表するジャーナリスト岸田吟香に着目したことだ。

岸田吟香は、日本の新聞界の草分け的存在として、また実業家としても活躍した人物で、卵かけご飯を全国に広めたとも伝えられています。

「麗子像」で有名な洋画家岸田劉生は、吟香の四男であり、五男の辰彌は宝塚歌劇団の演出家でわが国のステージに初デビュー、モン・パリを送り出し、ラインダンスを考案した人です。



▶ 美咲町出身のジャーナリスト岸田吟香が「卵かけご飯」を全国に広めたとも伝えられている

オープン以来3年7カ月で、25万人(年／7万人)を超える人が、美咲町の「卵かけご飯」を食べに町を訪れています。

卵かけご飯は、『黄福(こうふく)定食』と名付けられ、ご飯と卵がおかわり自由の300円。「黄福(こうふく)」とは、卵の黄身の『黄』と、幸福の『福』をかけ合わせた言葉で、新鮮

卵の黄身のイメージから、食べるといこか懐かしく、ふんわり幸せな気分になることができるなどからネーミング。

そして町自慢の新鮮で安心安全な食材を美味しく、しっかりと食べてもらつて幸せい氣分になつてもうれば、本当に嬉しいことです。もちろん、3、4杯と食べられる方もいますが、年間の卵の仕入れは調理も含め、14～15万個、この取り組みは多くのマスコミにも取り上げられ、またロコモでも広まり、北は北海道から南は沖縄県まで、わずか18席の食堂ではあります、が、

平均すると一人2杯になります。

現在美咲町は、「卵かけご飯」が話題になつたことをきっかけに、町内に点在する観光地や観光資源を「線」で結び、面としていくプラン、美咲 黄福物語、を開いています。

『美咲 黄福物語』は1章から3章の構成で、名前とおり、幸せな色をイメージする「黄色」を町のシンボルカラーとした幸福なまちづくりです。町内を「黄福」なモノで繋ぎ、ストーリー展開することで、「黄福」なまち美咲町の実現に向け、他市町村にはない魅力と活力あるまちづくりを目指していくのです。

▶卵かけ専用3種のタレを開発!
黄福定食と命名された卵かけごはんは、「食堂かめつち。」でー

美咲 黄福物語

—こうふくものがたり—

MISAKI YELLOW
HAPPY PROJECT

第1章

「美咲流卵かけご飯」は、

町の文化、歴史の詰め合わせ

『黄福物語』の第1章は、先にも紹介した新鮮卵と町自慢の棚田米を使用し、食べるどじか懐かしく、幸せな

気分になることができる、美咲流卵かけご飯での展開です。

美咲流卵かけご飯を「黄福定食」と命名、『Simple The Best』を合言葉に、シンプルな食材、シンプルなストーリーが、『話題を呼び、「食堂かめつち。』で黄福定食を食べた人は、3年7カ月で25万人を超えます。

美咲町の卵かけご飯は、町の農業・産業・偉人等、合併後間もない美咲町を一語で語れる詰め合わせ丼なのです。

第2章

『黄福のレンガ』を活用した
幸せなまちづくり

美咲町の棚原地域には、昭和30年代をピークに、硫化鉄鉱で東洋一の生産量を誇った棚原鉱山があります。

平成3年に閉山しましたが、現在も旧棚原鉱山の坑内から湧き出る地下水を中和処理し排水する作業が行われています。その中和処理により発生した沈殿物(廃棄物)を原料に、平成21年、県内の耐火レンガメーカーによつて黄色いレンガが開発されました。セラミックを混ぜることで、沈殿物に含まれている鉄分が化学反応を起こし、黄色を発色させる着色料を使わない耐火レンガです。

そのレンガを「黄福のレンガ」と名付け、リサイクル製品として町が積



黄福の黄色いハンカチプロジェクト

黄色と言えば、1977年に上映され、第1回日本アカデミー賞を受賞した映画「幸福（しあわせ）」の黄色いハンカチを思い出しませんか？



▼着色料を使わない黄色い耐火レンガ（黄福のレンガ）を使用した「幸せの“あいのす”」



町では、この映画をヒントに平成22年から新たなプロジェクトとして、美咲町を訪れる方に幸せな気持ちになつてもらおうと、町内の観光施設では、黄色いハンカチでお客様をお出迎え。毎秋開催されている「たまごまつり」では、1日限定で歩行者天国となる「黄福通り（亀甲商店街）」が、ハンカチで「黄色一色」に染まります。また町内の小・中学生1,300人が、黄色いハンカチ1枚1枚に、「甲子園に出場」「保育士になりたい」など、将来の夢や願い、家族への感謝の気持ちを書き込み、それをボランティアの皆さんが、巨大なハンカチに縫い合せて町内に展示するなど、「町」は着々と町民の手によって「黄福色」に染められていきます。

最近では、解体前の中学校の校舎に、在校生・卒業生らが、校舎への感謝の気持ちや、学生生活の思い出などを書き込んだ黄色いハンカチを屋上から飾るなど、その光景はあるで映画のワンシーンのようでした。

3月11日に発生した東日本大震災

▶ 黄色いハンカチ1枚1枚に夢や願いを込めて！



被災地からは遠く離れた美咲町ですが、「美咲 黄福物語」が今できる支援をこれからも続けていきたいと思つ

月下旬、福島県に届けてきました。や535枚もの「思い」が集まり、7月下旬、福島県に届けてきました。実施期間はわずか1ヶ月あまりではありましたが、多くの支援金に黄色いハンカチを販売（義援金）し、励ましや応援メッセージを書いてもらいました。実施期間はわずか1ヶ月あまりではありますが、多くの支援金や535枚もの「思い」が集まり、7月下旬、福島県に届けてきました。

の復興に対しましても、このプロジェクトから「何かできないか」、「何ができるか」と考え、少しでも被災地、被災された方の「活力」や「元気」に繋がればと、「黄福の黄色いハンカチ」の応援メッセージを被災地へ」と題して、町民の方や美咲町を訪れる観光客の方

に黄色いハンカチを販売（義援金）し、励ましや応援メッセージを書いてもらいました。実施期間はわずか1ヶ月あまりではありますが、多くの支援金や535枚もの「思い」が集まり、7月下旬、福島県に届けてきました。

被災地からは遠く離れた美咲町ですが、「美咲 黄福物語」が今できる支援をこれからも続けていきたいと思つ

ています。

黄福は、その「黄色」と「幸福」をかけ合わせた言葉…美咲町名物卵かけご飯をはじめとする「黄福」な食事や「風景」に数多く出会い、美咲町を訪れる方に「幸せな気持ち」になつてもらえるまちづくりを進めています。

美咲町では、その「黄色」と「幸福」をかけ合わせた言葉…美咲町名物卵かけご飯をはじめとする「黄福」な食事や「風景」に数多く出会い、美咲町を訪れる方に「幸せな気持ち」になつてもらえるまちづくりを進めています。

地域の「宝」を利用して、新しい観光ストーリーを描きながら、これからも美咲町の「黄福」をキーワードにした「黄色」という「色」をテーマに新たなまちづくりを開拓していくます。

あなたも「黄福探しの旅」に美咲町を訪れてみませんか！！

産業観光課 川島 聖史
(平成23年9月5日付第2772号)

100万人を目指して —瀬戸内のハワイ周防大島町へ都会の子供たちの修学旅行—

はじめに

周防大島町は、平成16年10月1日に大島郡の久賀町、大島町、東和町、橋町の4町が合併して誕生しました。

財政の健全化を第一に掲げ、合併の効

果を町民の皆様に感じてもらうことを念頭に「賑わいの創出・観光交流人口100万人」を目標に掲げ取り組んでおり、ここでその一端を紹介させていただきます。

瀬戸内のハワイ ～アロハ・マハロ～



▶島と本土を結ぶ大島大橋

我が町は山口県の東南部にあり、瀬戸内海に浮かぶ島では淡路島、小豆島に次ぐ3番目の面積を有し、島と本土とは大島瀬戸を渡る大島大橋によって連結しています。年間平均気温15.5℃と、温暖な青く澄みわたる瀬戸内の海と四季の彩り豊かな美しい自然を有する町で、瀬戸内のハワイと呼ばれる所以は、明治20年代の官約移民として4,000人がハワイに渡った歴史から昭和38年（1963年）6月22日にハワイ州カウアイ島と姉妹島縁組を締結して50年近くになります。文字通りハワイ移民の島で、120年に及



山口県 周防大島町 すおうおおしまちょう

▲片添ヶ浜海水浴場

▲瀬戸内のハワイ 大人気のフラダンス



ダンス衣装に身を包むとアロハな気分になり「周防大島町で輝いて生きよう100歳に挑戦」を実践中です。高齢者だけでなく保育園児のケイキフラ（子供フラダンス）も本当にかわいい、夏場の毎週土曜日にホテルや温泉施設で開催されるサターナーフラダンス」と「サターナ」が大人気で、遠く県外からの出場チームも多くあり幸せな笑顔であふれます。

生涯現役の島

交流の歴史に裏打ちされた我が町は、6月22日から8月末まで役所も銀行も郵便局も病院も地域の方々もアロハシャツが公用着となります。クールビズならぬアロハビズです。「アロハ！マハロ！」は、おはよう、こんにちは、ありがとうございます。よくいらっしゃいました、などの意味で、おもてなしの心で皆様を歓迎します。余談ながら、ハワイのアロハシャツは大島の渡航者が着用していた浴衣を短く切って着やすくしましたが、そもそものルーツといわれています。この季節フラダンスがとても人気です。お年を召された方も華やか

によつて人口は一気に増加し、島には人が満ち溢れる一方、生活は困窮しました。昭和22年頃65,000人を数えた島の人口は、ミカン栽培と漁業に支えられてきましたが、ミカンの過剰生産と価格の暴落によって高度成長期に一気に人口流出がはじまり、更に昭和51年島民の悲願であった大島大橋が架かつて本州とながつたことも皮肉なことに島の人口流出に拍車をかける結果となりました。

戦後、海外各地からの引き揚げ者によつて人口は一気に増加し、島には人が満ち溢れる一方、生活は困窮しました。昭和22年頃65,000人を数えた島の人口は、ミカン栽培と漁業に支えられてきましたが、ミカンの過剰生産と価格の暴落によって高度成長期に一気に人口流出がはじまり、更に昭和51年島民の悲願であった大島大橋が架かつて本州とながつたことも皮肉なことに島の人口流出に拍車をかける結果となりました。



▲サザン・セト大島ロードレース

体験型修学旅行で 交流人口の増加を

更に、周防大島町がここにきてこ

なフリーライド、フリーチャツなどフリーダンス衣装に身を包むとアロハな気分になり「周防大島町で輝いて生きよう100歳に挑戦」を実践中です。高齢者だけでなく保育園児のケイキフラ（子供フラダンス）も本当にかわいい、夏場の毎週土曜日にホテルや温泉施設で開催されるサターナーフラダンス」と「サターナ」が大人気で、遠く県外からの出場チームも多くあり幸せな笑顔であふれます。



▲サザンセト・大島少年サッカー大会

ます。60歳で定年を迎えた息子が、80歳でなお現役で農家や漁師として働いている親の元にレターンすることも度々あります。よくできたドラマの筋書きのような現実の話です。

スポーツイベントと スポーツ合宿で賑わいを

気候温暖で年間を通してほとんどのない冬の季節、昭和23年の第1回から64回を数える12月の大島一周駅伝（77チーム参加）、2月のサザン・セト大島ロードレース大会は27回（平成23年は招待選手に大阪国際女子マラソンで優勝の赤羽有紀子選手ほか3,000名参加）、15回を数える3月のサザン・

オーキング大会（平成23年は365歩のマーチの水前寺清子さんを迎えて）など多くのアスリートが周防大島町に集う賑やかなスポーツイベントが目白押しです。加えて、陸連公認の陸上競技場や合宿施設も充実しており、中国電力、中電工、JFE、天満屋、デオデオ、ユニクロや興譲館高校などの名門駅伝チームをはじめ、社会人・大学生の陸上競技、テニスやサッカーなどのスポーツ合宿でも賑わっています。



わかれに適応ついてきたのは修学旅行のおかげです。これまで島に修学旅行生が訪れることなど全く無かつたのですが、広島、山口の瀬戸内海沿岸の7市3町と商工会議所、商工会で作る広島湾ベイエリア海生都市圏研究協議会が体験型修学旅行の誘致に乗り出したのを受けて、2008年、初めて神奈川県の私立中学校の修学旅行生を受け入れました。その後、毎年、埼玉県や神奈川県の中学校、高校が数校ずつ訪れていましたが、平成23年は青森、埼玉、岐阜、滋賀、京都、奈良、大阪などの予約が次々と舞い込み、なんと中学高校合わせて20校3、400人の修学旅行の予約で、4月から12月まで満杯のスケジュールとなっています。体験型

修学旅行は民家に3～4人宿泊（ホーミステイ）する民泊と民泊家庭の農業や漁業などの家の業、家業体験をするものです。ネットは受け入れ家庭の開拓であり、私自身も民泊を受け入れてくれるよう住民に呼びかけて回っています。ネックは用意されています。ある家庭での芋ほり体験では何度も注意しても芋を放り投げるため「投げたら芋が傷つぐじゃないか」と一喝。子供らはびっくり。大声で他人から叱られることさえ初めての経験だったようです。私も初めての経験。子や孫が帰ってきたような自然体での受け入れができたと思っています。工業化の産業形態からは取り残された周防大島町。観光客数は年間80万人台で夏場の海水浴客が中心でしたが、新たな体験交流型観光で町の基幹産業である農業や漁業などの1次産業と観光交流を結びつけた新たな産業につなげ、観光交流人口100万を目指に21世紀にはばたく先進の島を目指しています。

前のことが都会の子供たちには新鮮な感動となり貴重な体験となると信じています。体验プログラムには、山から薪を、海から藻や海水を、川から菖蒲を集め長老方に教えてもらひながら自ら薪を焚き、床に菖蒲や藻を敷き詰めて江戸時代から残る石風呂に入る古代サウナ体験のほか、みかん

修学旅行は民家に3～4人宿泊（ホーミステイ）する民泊と民泊家庭の農業や漁業などの家の業、家業体験をするものです。ネットは受け入れ家庭の開拓であり、私自身も民泊を受け入れてくれるよう住民に呼びかけて回っています。芋ほり体験では何度も注意しても芋を放り投げるため「投げたら芋が傷つぐんじゃないか」と一喝。子供らはびっくり。大声で他人から叱られることさえ初めての経験だったようです。私も初めての経験。子や孫が帰ってきたような自然体での受け入れができたと思っています。工業化の産業形態からは取り残された周防大島町。観光客数は年間80万人台で夏場の海水浴客が中心でしたが、新たな体験交流型観光で町の基幹産業である農業や漁業などの1次産業と観光交流を結びつけた新たな産業につなげ、観光交流人口100万を目指に21世紀にはばたく先進の島を目指しています。

え、周防大島町のじ婦人方が島での体験交流をお待ちしています。ミカンのシフォンケーキ、ミカンパンとミカンピザ、山菜料理、サザエご飯、ワッキヨウゼ、シソジュース、柏餅と桜餅づくり、たけのこ堀、玉ねぎの収穫、ウニ割体験、などなどおもしろなものがかりです。自分で作ったものは格別味、じろじろのコースにたびたび参加される方も増えています。



▲「島の暮らしをおそそわけ」
氣候に恵まれた周防大島。青い海、青い空、心癒される景観です。農漁業者とふれあいながら樂しく、おいしく、心温まる交流、「島の暮らしをおそそわけ」として地域資源を生かした人と人とのつながり20もの体験メニューをそろ

起業家人材育成と チャレンジショップ

創立の大島郡立大島海員学校は明治30年
大島商船高等専門学校を前身と

する全国に5校しかない歴史と伝統ある我が町の誇りとする商船高等専門学校です。この大島商船高専で2008年から開講した企業家養成塾「島スクエア」。国から5年間の補助を受けて運営し3年間で115人が受講し、11人が新たに起業しています。年齢層も若者だけでなく定年後リターンした方や女性も多く、町も新たな起業家養成に大きな期待を寄せており、起業家を支援するためのチャレンジショップを道の駅周辺に5店舗設置しました。地元の「カシヤイチゴ」を使ったジェラート、地元産の蜂蜜商品、地元食材で作つ



►チャレンジショップで起業家支援

たスイーツ、地元産サツマイモの芋焼酎、移民が縁で交流しているハワイ雑貨やアロハシャツなど新たな取り組みが始まり、島の恵みを発信し賑わいの創出拠点となることを目指しています。

高齢化した町の保健、 医療、介護、福祉の充実

超高齢社会を迎えた周防大島町の大きな課題は保健、医療、介護、福祉の問題です。平成16年の合併時に経営形態を公営企業法全部適用として公営企業管理者を置き、3病院（東和131床、橘36床、大島99床）、2老人保健施設（さざなみ苑80床、やすらぎ苑50床）、看護専門学校（1学年35人）、訪問看護ステーション、4居宅介護支援事業所を運営しています。

採算性の面から民間医療機関の立地が困難な過疎地域における一般医療の提供、町の東から西まで車で約1時間かかることや独居老人や老々介護が多い地域性を考えれば3病院を堅持することが最も必要であり、それぞれの病院に独自性を持たせながら3病院での総合病院化を目指しています。又、公共交通機関が少なく不便なため患者の方々の利便性を図る上で町内にいたるところに無料の患者輸送バスを運行



►改築した大島病院

いかに安定的に維持向上させていくか」という目的のための手段であります。さらなる行政改革を推進し、財政健全化に全力で取り組んでまいります。行政改革により生み出された財源により、身近な生活関連施設の整備や、子育て支援等を充実させると共に、オートキャンプ場やスポーツ施設の一層の活用を図り、これまでの観光交流に加え、体験型修学旅行の促進や、スポーツイベント、高校、大学、実業団のテニス、駅伝、陸上競技などのスポーツ合宿の誘致と周防大島町の貴重な地域資源を活用し、「賑わいの創出」を進め、交流人口100万人を目指してまいります。

平成23年秋には「よしよ山口国体」。本町でもアーチェリー大会の本番を迎えます。全国各地から、数多くの方々がこの大島に訪れます。おもてなしの心や花いっぱい運動、クリーンアップ運動などを積極的に進め、国体で訪れた方々に周防大島町との絆を深めていただけるよう精いっぱいのおもてなしでお迎えしたいと思っています。

全国の皆様もぜひ一度瀬戸内のハイ・周防大島町へ!!

周防大島町長 植木 巧

(平成23年4月25日付第275回)

終わりに

財政の健全化は、「住民サービスを

元気まんまんまんのう町

改革・協働・輝きの町

まんのう町は、平成18年3月20日、

琴南町・満濃町・仲南町の3町の合併

により誕生した香川県の南西部、讃岐山脈の北側ふもとに広がる緑豊かな町です。讃岐山脈の主峰・竜王山や大川山周辺は香川県で初めての県立自然公園に指定され、ふもとを流れる1級河川土器川や町内に点在する無数のため池とともに四季折々に美しい風景を織り成しています。四国三県および中国地方とのアクセスにも恵まれていて、上に、「満濃池」や「野口ダム」、温泉、キャンプ場やレクリエーション施設など多彩な観光資源に恵まれ、一年を通じて多くの来訪者を集めています。

安心と安全・快適なまち

成熟時代の魅力的なまちづくりのための生活基盤の整備をはじめ、すべての住民が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指し、保健・医療・福祉の充実に努めています。

活力創造と改革のまち

住民と行政が協力し、共に汗を流す協働のまちづくりを進めるとともに、魅力的な生活や産業のまちづくりに向けて、住民主体の地域クラブ活動やボランティア活動、産業活動を支援しています。

自然と人々が輝くまち

まんのう町のすべての住民が元気まんまと活躍し、輝くことによって活発な情報発信が生まれ、人・もの・文化の交流を招き、さらに住民が輝くところ、プラスの連鎖が生まれるまち

日本最大の悠久のため池「満濃池」

満濃池は、貯水量が1,540万m³と規模が大きいことと、弘法大師（空海）

づくりを推進しています。



国内最大級のため池「満濃池」
毎年6月、田植えの到来を告げる「ゆる抜き」には、多くの観光客が訪れます。



香川県 まんのう町

が修築した、ゆかりの池といひいひで、全国に知られています。おとの町では、この満濃池を観光の中心とし、弘法大師が中国から持ち帰り、この地に植えたとしている「かりん」を町のシンボルとし、「かりんの里(いのむら)」として地域振興に取り組んでいます。

中でも自然環境の保全や周遊遊歩道の整備、池を展望しながら食事の出来るかりん亭、人づくり交流のかりん会館、下流には、初夏に螢が乱舞するほたる見公園など、訪れた方が滞在できる観光地づくりを行つてきました。



▲町立かりんの丘公園

平成22年3月28日には、NPO法人「さぬき夢桜の会」の尽力で、満濃池周辺にさまさかな桜一千本植樹が5年越しで達成され、春には来訪者の目を楽しませています。さらに平成21年からは、まんのうツーリズム協会を設立し、新たな観光資源の発掘、情報の発信、体験観光などに力を入れています。

まんのう町には、満濃池を中心として「国営讃岐まんのう公園」や「町立かりんの丘公園」、「県立満濃池森林公園」があります。国営讃岐まんのう公園は、「人間との語りごと」、自然、宇宙とのふれあい」を基本テーマに四国で初めての国営公園として平成10年4月にその一部が開園しました。その後、北口園路、自然生態園、満濃池展望遊歩道、湖畔の森、健康ゾーンの一部と開園区域を広げ、現在は、中央広場ゾーン、宿泊ゾーンを中心とする15ha。

7ヘクタールとなっています。今後は、広域観光ネットワークの中核をなすとともに、四国における文化、スポーツ・レクリエーション的一大拠点となるべく整備を進めていきます。

かりんの丘公園は、平成21年5月に完成した子どもからお年寄りまで多目的に楽しめる総合施設です。大型複

合遊具を中心とした豊富な遊具を整備

▲かりんの丘開園バイク演技



県立満濃池森林公園は、自然を感

じながら散策できる遊歩道やみどりの広場、野鳥観察小屋、森林学習展示館などが整備されています。昭和63年5月に全国植樹祭で、皇太子殿下、皇太子妃殿下がお手植えされたヒノキ、クロガネモチの記念樹が芝生広場に植えられており、四季折々、年間を通じて自然に親しめます。

道の駅の交流拠点 エピアみかど

平成11年、近代的な「エピアみかど」がオープンしました。国道433号沿いの香川県と徳島県の境に位置する「道の駅ことなみ」の施設で、歴史ある名湯「美霞洞の湯」からひいた天然温泉、

水面に浮かぶ幻想的な石の能舞台、地元の新鮮素材をふんだんに使った料理が楽しめるレストラン、カルチャールームなどさまざまな設備が整っています。「エピア」とはエングジョイ(E�一ー・ヨ・)・ピープル(people)・アセンブル(Assembly)の頭文字をとった造語で、多くの人が集まり楽しむ場所という意味が込められており、旅の疲れを癒してくれるだけでなく、地域の新たな交流拠点として幅広く活用されています。



鎌倉時代に発見された 塩入温泉

塩入温泉は鎌倉時代に高野山の道範阿闍梨が尾瀬山で修行をしていた時に、この地に立ち寄つて見つけたと伝えられています。

昭和59年、町の活性化を図る目的で温泉調査を行つたところ、冷泉を発見したことから、旧仲南町では温泉を通じて四季折々の変化に富んだ美しい景観の中でふゆやとの味を満喫し、よ

り一層の健康増進が図れるようにと「塩入温泉」を整備しました。

高齢者に人気の 「あじあいタクシー」

役場本庁の周辺には、若く世代が多いものの、山間地域では、過疎化が急速に進み、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯がどんどん増えています。そのような高齢者が日常生活で困ることは、やはり病院や買い物などの移動をどうするかとなるのです。

現在は、高齢者の約3割は自家用車を持ち、病院や買い物などの移動に利用していますが、運転ができなくなつた場合の対応策が必要です。運転免許の返納を推進するためにも、財政負担がより少なく、高齢者にとって使い勝手のよい新しい公共交通システムの構築が強く望まれるようになりました。

そこで、町は、平成20年3月に、まんのう町地域公共交通協議会を設立し、1年間で6回の協議を重ね、「まんのう町地域公共交通総合連携計画」をまとめました。協議会の中での議論や住民アンケートを通じて、確認したところは次のとおりです。

①町内を走る路線バス2路線は、小学生、高校生の通学のため何としても現時点のサービス水準を確保したい。

②通勤者のほとんどが自家用車の利用なので、今後はパークアンドライドを進める。また、琴電の羽間駅と櫻井駅の中間に新駅を設置し、駐車場を整備することを検討していく。

③高齢者層の外出先は、主に通院と買い物が占めており、高齢者の約3割は家族の送迎に頼つてゐる。公共交通を利用せず家族の送迎に頼る要因は、バス停までが遠く歩けないと、路線バスの運賃が高いこと、また、便数が

少なく不便であることなどである。したがつて、特に高齢者が利用しやすい便利で小回りの利く新しい公共交通システムが早急に必要である。

これらを基に新しい公共交通システムとしてデアーロジアの「スマート乗合タクシー」の実証運行と「共通パス券の発行」を決定しました。



3地区に区切り、その範囲内を1台づつが巡回運行します。タクシーは、住民から愛され、たくさんの出逢いをもたらしてくれるようこと、「あいあいタクシー」と命名され、山あいの道を毎日送迎に活躍しています。



▶「あいあいタクシー」と命名され、山あいの道を毎日運行しています。

実証運行開始から11か月が経ち、10月現在の1日の利用者は57人となり、当初の目標42人を大幅に上回りました。年間目標の1万人も10月25日に達成することができました。

経費は予約受け付けシステム構築費用を除き、維持費としてジャンボタクシーの借り上げ料、オペレーター2名の人工費、システムの保守料、通信費などで約2千百円程度必要ですが、

国土交通省の地域公共交通活性化・再生総合事業を活用しています。国の補助を受けられる3年間の実証運行が終わった後、運賃収入以外の財源をどう確保するのか知恵を出して、高齢者の日常生活を支え続けられる仕組みづくりが今後の大きな課題です。

わざと後、運賃収入以外の財源をどう確保するのか知恵を出して、高齢者の日常生活を支え続けられる仕組みづくりが今後の大きな課題です。

町内を光ファイバーで結ぶ ～情報基盤整備事業～

情報基盤整備事業は、ブロードバンドゼロ地域の解消、テレビ共同受信設備の地上デジタルテレビ放送への対応、既存の行政放送設備及びインターネットシステムの老朽化や合併により発生した地域間格差などの問題を解決するため実施しました。

事業では、総務省の「地域情報通信

実証運行開始から11か月が経ち、10月現在の1日の利用者は57人となり、当初の目標42人を大幅に上回りました。年間目標の1万人も10月25日に達成することができました。

▶告知放送録音風景



▲音声告知器



ス テ ム (J一
A L E R T) か

らの緊急地震速

報など国民保護に関する情報を住宅に伝達できるものとしました。火災等の緊急放送は、行政放送告知施設を利

用し消防署より直接行い、同時にサイレンも光ファイバー網を活用して吹鳴

してこます。

サービスの提供は、継続的な運営や維持管理を考慮し、民間のケーブルテレビ事業者に一括契約（長期的継続契約）により施設を貸し付けて、その賃料で保守費用を賄つ「公設民営方式」を選択しました。

基盤整備推進交付金を活用し、町全域に総延長約470キロメートルに及ぶ光ファイバ網を敷設して、行政、学校、公民館等の施設をネットワークで結び、各住民宅に光ファイバーを引き込みました。これにより町全域での地上デジタル放送の視聴と、100Mbpsの超高速インターネットやIP電話の通信サービスが利用できる環境が整備されました。また併せて、旧町間の老朽化していた防災行政無線とオフourke通信で構成されていた行政放送設備を

一新する事業に取り組みました。この設備は、停電時でも放送を聞くことができる。

（平成22年11月1日付第27330号）

総務課長 齋部 正典

この森に遊びこの森に遊びて あめつちの心に近づかむ

—地域資源を活かしたまちづくりで個性を磨く!—

私の住む森の国松野町

▶全長300mの花崗岩の一枚岩を溪流が雪の輪を描きながら流れる「雪輪の滝」

愛媛県松野町は、四国の西南部に位置し、面積98・50km²、人口4,500人、周囲を標高1,000m級の山々に囲まれ、東部と南部を高知県と接する予土県境のまちです。

松野町は、総面積のうち、84%を山林が占め、その豊かな森から生まれる流れは、その流域に肥沃な耕地を創りながら二つの河川に集まり、大きく蛇行しながら町を貫流し、日本最後の清流と形容される四万十川

に注いでいます。

この二つの流れは、豊かな水と肥沃な耕地以外にも私たちに多くの恵みを与えてくれます。

町の中心部を東西に貫流し、幅員100mを有する広見川は、四万十川最大の支流で、折々の景観に風情があり、田畠を潤してくれます。また、この広見川は川狩りの名所であり、そこで獲れる天然うなぎや川ガニ、川えびをはじめとする川の恵みは、私たちはもちろん、通人の舌つみを打ち鳴らす逸品です。

もう一つの貫流である田黒川は、その源流部に日本の滝百選に選ばれた雪輪の滝などの滝や深淵、奇岩、巨岩が12kmにわたって連続する滑床渓谷を有し、その美しい景観が評され国立公園に指定されています。春は新緑がまぶしげ、夏には滝すべりに興じる若者や避暑に訪れる人々を迎える、秋には紅葉で美しく化粧され、冬には幻想的な氷の城へと変化し、まさに「森の国」と



▲国立公園滑床渓谷「森の国ホテル」



愛媛県 松野町 まつのちょう

呼ぶに相応しい仙境で、四季を通じて私たちの日を楽しめてくれます。

また、松野町は古くからこの川沿いに伸びる街道が発達し、土佐と伊予を結ぶ交通、交易の要衝として栄え、そこに多くの歴史資源と独自の薫り高い文化が育まれてきました。

◀「雪輪の滝」で滝すべりに興じる。



◀伊予と土佐の交易で栄えた松丸街道。
ひそかに残るいにしえの面影。

大地を潤し、魚族を育み、文化を運ぶ清流「四万十川」。流域にさまざまな恩恵を与えてくれるこの川の、最初のひとつが生まれる場所のひとつに、足摺宇和海国立公園「滑床渓谷」があります。

滑床渓谷は、1,000m級の山々が連なる鬼ヶ城山系に源を発し、延長12kmにわたる渓谷美、四季折々に美しい変化する森林美、稜線部まで足を延

ばすと美しいリニアス式海岸の宇和海や遠く九州まで一望できる展望美の三つの美が楽しめます。昭和32年、この天与の大資源「滑床渓谷」を活かしたまちづくりが始まりました。自然保護を最優先に、住民の休養の場、若者の健全育成の場として活用することを基本理念に掲げ、町営の「コースホステル万年荘」を建設し、キャンパー・や若者を中心に自然に癒しを求める多くの人で賑わうスポットとなりました。

なお、表題の「この森に学びこの森に遊びてあめつちの心に近づかむ」は、滑床の自然を愛し、滑床の観光開発の創始者であり、発展に寄与した、松野町初代町長 岡田倉太郎氏が記した言葉です。

以来、滑床渓谷は営利観光ではなく公益観光で行うことづつ一貫した方針で、経営を続けてきました。

しかし、その後度重なる不況の到

天与の大資源を活かす 「森の国のまちづくり」の はじまり



来や観光ニーズの多様化、施設の老朽化等により滑床渓谷への入り込み客は徐々に減少に転じてきました。さらに、沿道の観光交流拠点もなく、地域の産業や文化に及ぼす効果も少なく、新たな交流拠点の整備が緊急の課題となっていました。

松野町では、この現状をふまえ、昭和63年に滑床山岳レクリエーション整備事業をスタートさせました。

この計画では、引き続き自然保護を最重点課題に置き、必要最小限の施設整備による利便を確保することとしました。また、宿泊機能を充実させ滞在型観光へ移行することによる地域経済への波及と雇用機会の創出を目指し、そして滑床の魅力を広く伝えることによる自然との共生意識の高揚を図ることを目的としました。

本事業により、遊歩道や公共交通トイレ、宿泊施設などを一定程度整備し、平成3年には、その中核施設である「森の国ホテル」が完成しました。森の国ホテルは、それまでの公共宿泊施設のイメージを一新し、滑床の自然環境を満喫するとの出来ある充実した施設と上質なホスピタリティをコンセプトとしました。この森



◀大きな暖炉のある「森の国ホテル」のラウンジは、まさに「森の特等席」

▼ホテルのレストランでは、地元の食材でフレンチを楽しむことも！



の国ホテルの話題性と、癒しを自然のなかで求める指向の拡がりにより、滑床渓谷への入り込み客は飛躍的に増加し、平成6年には、森の特等席「森の国ロッジ」を整備し、宿泊機能を強化、増える宿泊ニーズに対応しました。一方で、滑床渓谷へのアクセス道路について、利便確保の面で二車線改良の計画もありましたが、普通車が離合できる場所の確保と、大型車が最低

限入れるだけの拡張工事にとどめるなど、滑床渓谷を俗化させず、自然保護を最優先とした施策を展開しています。

点から面へ「森の国のまつづくり」の拡がり

全国的に農村部で過疎化と高齢化が進むなか、松野町においても高齢化の進行と過疎化に直面しています。また、高速道路の延伸など交通体系の整備により利便性が向上する一面、人口の流出との危険性もほりんどります。

いつしたなか、松野町では、森・川の豊かな自然、古くから交通の要衝が故に育ってきた歴史・文化資源を再発見、ブラッシュアップして観光資源化し、交流人口の拡大、雇用の場の創出などにより、地域の活性化を図ろう



▲目黒ふるさと館の「目黒の山形」。精巧かつ保存状態も良く、国の重要文化財に指定。

美しい田園景観が残る四万十川最大の支流広見川沿いに、都市民と地域住民の交流、自然との共生意識の醸成、若者の雇用の場づくり、地域経済の活性化を目的として、平成9年に、道の駅「虹の森公園」を整備しました。

森の国の魅力満載道の駅「虹の森公園」

男記念館」、山の入会権を巡る争いの裁定を江戸幕府に求める際の審判資料として作られた立体模型「国指定重要文化財日黒山形関係資料」を収蔵する日黒ふるさと館、「JR松丸駅」のある「森の国ほっぽ温泉」など、地域の資源を活用した交流の拠点を整備してきました。松野町では、滑床渓谷の森の国ホテルを核として、町内各所に点在する地域資源や観光拠点を連動させ、特色ある「森の国のまつづくり」をすすめています。

と積極的な取り組みを進めてきました。森の国松野町の魅力を満載した道の駅「虹の森公園」、四季折々の里山の美しさと中世の歴史に触れるこの掘調査と整備、交易に栄えた松丸街道が生んだ夭折の俳人の短くもあざやかな天性の輝きを展示している「狂不器男記念館」、山の入会権を巡る争いの裁定を江戸幕府に求める際の審判資料として作られた立体模型「国指定重要文化財日黒山形関係資料」を収蔵する日黒ふるさと館、「JR松丸駅」のある「森の国ほっぽ温泉」など、地域の資源を活用した交流の拠点を整備してきました。松野町では、滑床渓谷の森の国ホテルを核として、町内各所に点在する地域資源や観光拠点を連動させ、特色ある「森の国のまつづくり」をすすめています。



▲四万十川学習センター「おさかな館」



▲戦国の城をのま馬とともに体験

美しい田園景観が残る四万十川最大の支流広見川沿いに、都市民と地域住民の交流、自然との共生意識の醸成、若者の雇用の場づくり、地域経済の活性化を目的として、平成9年に、道の駅「虹の森公園」を整備しました。

公園内の淡水魚水族館に必要な水を確保するために地下水を探したところ、低張性アルカリ性冷鉱泉が湧き出しました。早速、平成14年にこの冷鉱泉を活用した施設「森の国ほっぽ温泉」を整備しました。この施設は、名前から想像されるように、町内を走るJR予土線(しまひとグリーンライン)松丸駅にある温泉として新しい人気のスポットとなっています。

国境ゆえに形成された資源「国指定史跡 河後森城跡」

町の中心部の背後には、お城山として住民に親しまれてきた「河後森城跡」があります。この山の頂上にある本郭に登ると、川の上流から下流まで、さりには、かなり広く遠くの山や谷まで見渡すことができ、トトロにわたりの拠点の城が築かれていたことが容易に想像できます。この城跡は、馬蹄形という大変珍しい形状で、山稜部には本郭を中心にも数個の曲輪が連続して築かれています。

ているほか、土塁、空堀、虎口等が発

掘・確認されており、まさに中世城郭最大の特徴である「土から成る城」を見ることができます。むろには、発掘調査により本郭部分には天守と推測される大型礎石建物の存在や石垣が発見され、中世から近世への過渡期の様相が確認できる第一級の歴史資料であることから、国の史跡に指定されています。

町では、この河後森城を中世の城や当時の史実、生活の様子などが学べる「史跡機能」と、里山の植生や森の役割を学び体験できる「森機能」の共生を目指した整備・活用を進め、「体験する史跡」として、町外から訪れる歴史ファンはむちむんのこと、まちの将来を担う子どもたちの郷土愛を育む場、生涯学習やふれあい再発見によるまちづくりをしよつとある取り組みが始まっています。

そうしたなかで、本町では、住民と行政の協働により、歴史・文化資源、暮らしのなかの伝統行事や食文化など、森の国まつのが有する固有の地域資源を再発見し、それを活かしたまちづくりをしよつとある取り組みが始まってあります。

国立公園滑床渓谷においては、自然保護に取り組んできたグループが、その魅力を伝え、理解してもらつたためのガイド「森の国ネイチャーガイド」を始めました。国指定史跡河後森城跡では「森の国山城の会」が結成され、史跡の学習と伝承、植生研究や実践をおじて、河後森城を懐かしく心地よい里山の自然環境を保全する活動を展

していく場として活用しています。

これからの「森の国のもちづくり」 ～この森に学びの森に遊びて あめつちの心に近づかむ～

開していきます。さりに滑床のお膝元、田黒地区では、蛍の舞う懐かしい畦道の風景を再生せようと地域ぐるみの取り組みが始まっています。

松野町の特産品のひとつ「桃」を生産する農家の女性グループ「ピーチクラブ」では、自らが生産する桃を利用して、赤ちゃんでも安心して食べられる桃ジャムを生産し、全国各地で売られている田分たち

の桃ジャムを見て回ることを夢に、六次産業化に取り組んでいます。そのほかにもグリーンツーリズムクラブの活動など、挙げれば、枚挙にいとまがありませんが、いずれの活動においても、わがふるせとの歴史や文化、自然環境や當みなどの地域資源を再発見し、それを活かした活動をとおして循環型・高付加価値型の「森の国産業おこし」を目指していきます。

本町において、これまでじおり観光・交流産業の振興は、まちづくりの大柱のひとつです。

▲この森をこの子らのために！

磨き、キラリと輝くまちづくりを推進していくきます。その結果として、その輝く光を観に多くの人が訪れ、住民が誇りと愛着を感じる「森の国のもちづくり」が実現すると考えております。



松野町長 阪本壽明

(平成23年7月4日付第27-05号)

惠まれた自然景観と薫り高い歴史・文化資源、そしてそれを活用した観光施設、さらには、住民自らが地域の自然景観や歴史・文化資源を再発見しがれ、森林を懐かしく心地よい里山の自然環境を保全する活動を展



▶ボランティアガイドがまちを案内



▲森の国のもちづくりの理念となった、初代町長 岡田倉太郎氏の書

森がすくすく、川がじきつき、人が元気

—自然満足都市 もほく—

インパクトある 町名を活かす

全国で「鬼」の付く自治体は、我が町「鬼北町」だけあります。

「鬼」のイメージには、好感を持たないという人が多いと思います。私はそれを逆手にとつて、「鬼の北(来た)町」の町長ですと名刺交換をいたします。

「鬼」には、一つのことについに信念と情熱を傾注し、ただひたむきやり通すという意味もあります。だからこそ「仕事の鬼」「土俵の鬼」と尊敬される日本文化が息づいているのだと思つています。「鬼」は「力」、「鬼」は「精魂」です。

鬼北町は、平成17年1月1日に旧広見町と旧日吉村が合併し誕生した町

で、四国愛媛県の西南地域に位置する人口1万1千余人の中山間地です。農林業が主産業ですが、国道3線が交差する交通の結節点であり、隣県高知県の市町村を含む地域住民の生活経済圏として発展してきました。

また1,000m級の山々に囲まれ、清流四十川の最大支流である広見川や国立公園に指定される成川渓谷、四十川源流の節安渓谷等の観光資源に恵まれてゐることから、公共の宿泊施設や二つの道の駅（「日吉夢産地」と「森の三角ぼっこ」）、温泉、公園、観光農園等を整備し、魅力ある町づくりに努めています。

風光明媚な鬼北町は、先人から受け継いだ固有の生活文化や多様な芸術・伝統文化を継承してきた地域力と人間力豊かな町であると自認しています。



愛媛県 鬼北町 きほくちょう

▲四十川最大支流「広見川」での川上り駅伝

公園に指定を受けたことによりて一躍脚光を浴びることとなりました。成川渓谷を抱く毛山やハ面山など、000mを超える鬼が城連峰からの展望とともに、シイ・タブ・カシ類などの温暖地帯の広葉樹林が繁茂する自然林の中に、桜・カエデ・モミジ・ツガなどが混生し、四季折々の変化に富む絶景地であります。

成川渓谷は、古来より精麗な渓谷と自然林に囲まれた憩いの場として地元民に親しまれてきましたが、昭和47年にこの一帯が足摺宇和海国立公園に指定されました。

温泉のあるキャンプ場成川渓谷



成川渓谷を抱く毛山やハ面山など、000mを超える鬼が城連峰からの展望とともに、シイ・タブ・カシ類などの温暖地帯の広葉樹林が繁茂する自然林の中に、桜・カエデ・モミジ・ツガなどが混生し、四季折々の変化に富む絶景地であります。

「鬼北熟成きじ」が美味しい秘密

て人気を博しています。

▲最大イベント「やちいんか」でのジャンボきじ鍋(手前)

鬼北町では、特産品として雉(きじ)を養殖・加工・商品化して全国販売を展開しています。きじ肉は処理後すぐ食べるより2日ほど熟成させてから食べた方が美味しいことは昔から知られています。しかし熟成とは、除々に腐敗が進行していくことを意味しますので、きじ肉の熟成を進めつつ腐敗を可能な限り押さえたためには、一定の低温で48時間寝かせるのが最適なことが解かりました。化学的に実験したところ、旨味の主成分「イノシン酸」等も48時間経過後に最大になることが解かり、その熟成のピーク時に凍結処理をするのがベストといつこになりました。



また、成川渓谷が「愛媛12景」に指定されたことが活力となり、町営の宿泊施設である成川渓谷休養センターと高円温泉を整備するとともに、バンガロー（10棟）の新設とキャンプ場を完備しました。これにより四季を通じて遊山客が多く訪れるようになりました。隣接する高円温泉は、「ジウム」と硫黄の混合泉で万病に効果があると云われており、大浴場からはガラス越しに移りゆく四季折々の渓谷美を眺めることができます。温泉とふるさと料理さらに温泉のあるキャンプ場としてアウトドアやグリーンツーリズムなど「癒し型レジャースポット」とし

て人気を博しています。

成川渓谷から徒歩約10分の位置にある「成川渓谷休養センター」は、木造の外観で、木の香りがする内装が特徴的です。宿泊施設としてバンガロー（10棟）があり、各部屋には大きな窓があり、外の風景を楽しむことができます。また、温泉施設として「高円温泉」があり、露天風呂や大浴場があります。温泉の湯質は「ジウム」と呼ばれる混合泉で、硫黄の香りがします。温泉と一緒に楽しめるのが、地元の料理です。地元の食材を使用した郷土料理が楽しめます。また、キャンプ場としても利用できます。アウトドア用品を貸し出しているので、キャンプ道具を持たない方でも安心です。また、周辺には、山歩きや登山などの自然観察スポットがあります。成川渓谷の自然の豊かさを満喫できる施設です。

きじ肉が1年のうち一番身が締まって美味しくなるのは、12月～3月上旬頃のわずか4ヶ月間です。美味しい「鬼北熟成きじ」を年間通して安定供給するためには冷凍技術の開発が大きな課題となりました。しかし、従来の凍結法では凍結時に細胞内の水分が解凍時には、旨味成分を含む細胞内の諸成分がドリップ（多量の水分となつて出てしまひ、味も鮮度も落ちてしまふこと）と解かりました。熟成技術で旨味成分をたっぷり含んだきじ肉に仕上げても、商品化するためには新しい凍結法が必要でした。

◀「古(いじ)いえの味を食卓へ」鬼北熟成
きじをじ賞味あれ



げることができ、また最良の状態だから
いじをじ冷凍保存中の劣化もなく長期保
存することができるようになりました。

厳選した飼料で養殖したきじ肉には、人体に必要なアミノ酸が多種含まれておりヘルシー食材として食通にも認知していただけております。年間を通して美味い「鬼北熟成きじ」を自信を持って提供させていただけておりますので、ぜひご賞味いただきたいと思ひます。

高齢者の輝くまちづくり

結法の開発が急務となりました。

様々な実験の結果、熟成後マイナス30度以下のアルコール液にきじ肉を浸す「瞬間急速凍結技術」を開発しました。急速に内部まで凍結するけど、細胞内に生じた微結晶がそのまま微小状態を保ち細胞破壊も最小限に抑えることが可能となり、それによつて解凍時にドリップの発生を抑えられることができたのです。

こつした様々な努力の結果、旨味成分が最良の状態にあるきじ肉に仕上

るの健康と元気を楽しみに活動しています。

1月19日に全国放送されました。

福島県土湯温泉では、毎年「いじけ

し祭り」を開催されており、平成24年4月21日から22日にかけて開催されます。今回の「ドキュメンタリー」を行なわれた「東日本大震災被災者応援イベント」に鬼北町役場職員4名と参加し、土湯温泉観光協会に手渡しで贈らせていただきました。

この度、高齢者が過疎地で元気に生きる姿を記録した「第20回「いじけキュメンタリー大賞」で大賞を受賞、

高齢者になつても、まだまだ社会のお役にたてるところ、人間としての「誇り」の回復ではないかと思っています。

放送の中でも地域振興課長が語つておりますが、「農村では60歳代は青年」であり、いの高齢者のパワーを最大限生かした町づくりは、今後の町のあり方を方向づけないと考へています。

「愛治ちゃんじんクラブ」の地区では、以前から高齢者が中心となつた地域起こしの活動が活発であり、ウコンの栽培、そのウコンを利用したウコンワーメンの開発、山芋の研究・栽培などの取組みが進められてきました。



▶大人気の「愛治ちゃんじんクラブ」

▲夜市に出演の愛治ちゃんどんクラブ



輝いて生きていこうの毎日へのを進めて
じきたじと歩んでこおわ。

一世紀に繋げる庁舎

鬼北町庁舎は、昭和の大合併で誕生した旧広見町の庁舎として、今から54年前の昭和33年に完成した建物です。我が国の近代建築を牽引したアンダーン・レーモンドが開設したレーモンド設計事務所が設計した庁舎として、建設当初から「町村の庁舎としては四国随一」と言われるほど注目された建物です。「鬼北町庁舎は強固な地盤の上に建てられており、適切な耐震補強工事を施すことにより引き続き庁舎として使用が可能であり、庁舎内の設備機器の改善も現在の技術を持つすれば、更なる快適性が確保できる。また、その歴史的文化的な価値については、県宇和島圏域観光振興イベント（高速道路開通イベント）「えひぬ南予いやしほ2012」では、自分たちで作った「そば」を使った「そば打ち体験」を企画する等、グリーンツーリズムにも積極的に取り組んでいます。

今後もこれらの活動をヒントに、高齢者が「誇り」や「生きがい」を持ち、

輝いて生きていこうの毎日へのを進めてじきたじと歩んでこおわ。

鬼北町庁舎は、「無駄を避け、建築の必須要素だけで高水準のデザインを施すレーモンドの建築觀を反映した完成度の高い建物で、建設後50年を経過し造形の規範となつてゐるもの。」との登録有形文化財基準を満たすとして、これにより本庁舎は、平成24年2月に正式登録されました。

築後半世紀を過ぎた鬼北町庁舎は、耐震性を始め様々な課題を抱えておりますが、その歴史的・文化的な価値は先述の通りであります。この庁舎を再生保存し、更に新しい価値を付加するこことにより、引き続き40年～50年庁舎として使いつづけむことこそ意義あることであり、眞の地域財産・観光資源となると考えてあります。もつとも、経費がござらなかつても良いといつひとにはなりません。でもうだけ経費を抑えながら、しかも現庁舎の持つ歴史的・文化的な価値を損なつ

（平成24年3月12日付第279号）
鬼北町長 甲岡 秀文

合わせて改修工事を行い、本庁舎が単に役場の事務をする場所に止まらず、町民の皆様に希望や勇気を与えてくれる、そしてそこで働く職員が、町民の方々の幸せいために誇りを持って執務ができるよう、そのよつの再生庁舎にしたことを考えておひおあ。



▲レーモンド設計事務所が設計した鬼北町庁舎